在宅介護実態調査結果

板橋区

令和５年６月

目　　次

Ⅰ　調査概要 …… 1
Ⅱ　調査結果 …… 3
1　本人の概況（A票） …… 3
(1)　世帯類型 …… 3
(2)　家族等による介護の頻度 …… 3
(3)　主な介護者と本人との関係 …… 3
(4)　主な介護者の性別 …… 4
(5)　主な介護者の年齢 …… 4
(6)　主な介護者の居住地 …… 5
(7)　主な介護者が行っている介護 …… 5
(8)　介護のための離職の有無 …… 6
(9)　保険外の支援・サービスの利用状況 …… 7
(10)　在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス …… 8
(11)　施設入所の検討状況 …… 9
(12)　本人が抱えている傷病 …… 10
(13)　訪問診療の利用の有無 …… 11
(14)　介護保険サービスの利用の有無 …… 12
(15)　介護保険サービス未利用の理由 …… 12
2　主な介護者の就労状況（B票） …… 13
(1)　主な介護者の就労の有無・勤務形態 …… 13
(2)　働き方の調整の状況 …… 13
(3)　就労継続に向けて効果的な勤め先からの支援 …… 13
(4)　就労継続の見込み …… 14
(5)　今後の在宅生活の継続に向けて、不安に感じる介護 …… 14
(6)　介護をするうえで困っていること …… 15
3　介護保険認定データ …… 16
(1)　年齢 …… 16
(2)　性別 …… 16
(3)　要介護度（二次判定結果） …… 16
(4)　障がい高齢者の日常生活自立度 …… 17
(5)　認知症高齢者の日常生活自立度 …… 17
(6)　サービス利用の組み合わせ …… 18
(7)　介護サービスの利用回数 …… 18
4　検討テーマ別の分析結果 …… 19
[1]　在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討 …… 19
(1)　施設入所の検討状況 …… 19
①　要介護度別 …… 19
②　世帯類型別 …… 19
(2)　介護者が不安に感じる介護 …… 20
①　要介護度別 …… 20
②　認知症自立度別 …… 21
(3)　サービス利用の組み合わせ …… 22
①　要介護度別 …… 22

② 認知症自立度別 …… 23
③ 世帯類型別 …… 24
(4) サービス利用回数と施設入所の検討状況 …… 25
① 訪問系サービス …… 25
② 通所系サービス …… 25
③ 短期系サービス …… 25
(5) サービス利用回数と介護者が不安に感じる介護 …… 26
① 訪問系サービス …… 26
② 通所系サービス …… 27
③ 短期系サービス …… 28
[2] 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制 …… 29
(1) 就労状況別 主な介護者の状況 …… 29
① 世帯状況 …… 29
② 本人との関係 …… 29
③ 年齢 …… 29
④ 男女別 …… 30
⑤ 介護している本人の要介護度 …… 30
⑥ 介護している本人の認知症自立度 …… 30
⑦ サービス利用の組み合わせ …… 31
⑧ 訪問診療の利用 …… 31
⑨ 施設入所の検討状況 …… 31
⑩ 介護の頻度 …… 31
(2) 就労継続の見込み …… 32
① 就労状況別 …… 32
② 要介護度別(フルタイム勤務＋パートタイム勤務) …… 32
③ 認知症自立度別(フルタイム勤務＋パートタイム勤務) …… 32
④ 就労継続見込別 施設入所の検討状況 …… 33
⑤ 就労継続見込別 介護者が不安に感じる介護 …… 33
⑥ 就労状況別 介護をするうえで困っていること …… 34
⑦ 就労継続見込別 介護のための働き方の調整 …… 35
⑧ 効果的な勤め先からの支援 …… 36
Ⅲ 資料編(在宅介護実態調査調査票) …… 37

Ⅰ　調査概要

（１）調査の目的

第9期介護保険事業計画の策定にあたり、在宅で要支援・要介護認定を受けている方の家族介護の状況や介護保険サービスの利用状況を分析し、「在宅生活の継続」と「介護者の就労継続」に資するサービスの在り方を検討するために実施した。

（２）調査対象

在宅で生活している要支援・要介護認定者のうち、調査期間中に更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受けた方で、調査への協力に同意された方　636名

（３）調査方法

要介護認定調査実施時の、訪問調査員による聞き取り調査

（４）調査期間

令和４年４月～令和５年３月

（５）調査項目

調査票	調査項目
A票	本人の概況 ・世帯類型・家族等の介護の有無・介護保険以外の支援・サービスの利用状況 ・介護のための離職の有無・施設入所の検討状況　など
B票	主な介護者の就労状況 ・勤務形態・働き方の調整・仕事と介護の両立に効果のある勤務先の支援 ・就労継続の可否に係る意識・介護者が不安に感じる介護　など

※調査項目は厚生労働省が示した調査項目に、一部区で独自にオプション項目を追加して実施した。

（６）用語の定義

＜サービス利用の分析に用いた用語の定義＞

用語		定義
未利用		「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、未利用として集計している。
訪問系		（介護予防）訪問介護、（介護予防）訪問入浴介護、（介護予防）訪問看護、（介護予防）訪問リハビリテーション、（介護予防）居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計している。
通所系		（介護予防）通所介護、（介護予防）通所リハビリテーション、（介護予防）認知症対応型通所介護を「通所系」として集計している。
短期系		（介護予防）短期入所生活介護、（介護予防）短期入所療養介護を「短期系」として集計している。
その他	小規模多機能	（介護予防）小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計している。
	看護多機能	看護小規模多機能居宅介護を「看護多機能」として集計している。
	定期巡回	定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計している。

＜サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義＞

用語	定義
未利用	上表と同じ
訪問系のみ	上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計している
訪問系を含む組み合わせ	上表の「訪問系（もしくは定期巡回）+「通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）+「短期系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」+「通所系」+「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計している
通所系・短期系のみ	上表の「通所系」、「短期系」「通所系」+「短期系」の利用を集計している

（７）調査結果の見方・分析方法

- 調査結果の数値は各設問の回答者数(n)を基数とした構成率(%)で表示している。
  小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示しているため、合計値が 100%とならない場合がある。
- 複数回答ができる設問では、その回答率(%)の合計は 100%を超える場合がある。
- 報告書の作成にあたっては厚生労働省が配布した「在宅介護実態調査集計分析ソフト」を使用し、調査結果と要介護認定データを結び付けて集計・分析を行っている。

Ⅲ　調査結果

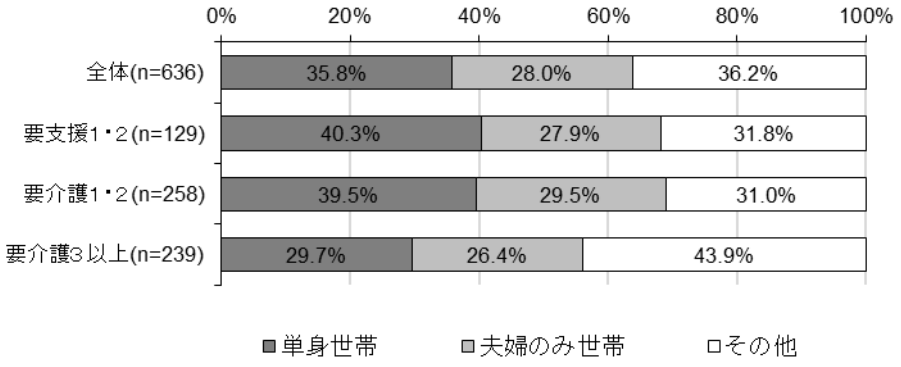
１　本人の概況（Ａ票）

（1）世帯類型

全体では「単身世帯」が 35.8%、「夫婦のみ世帯」が 28.0%、「その他」が 36.2%となっている。

要介護3以上では「単身世帯」が、要支援1・2、要介護1・2より、10 ポイント程度減っており、「その他」世帯の割合が4割を超えている。

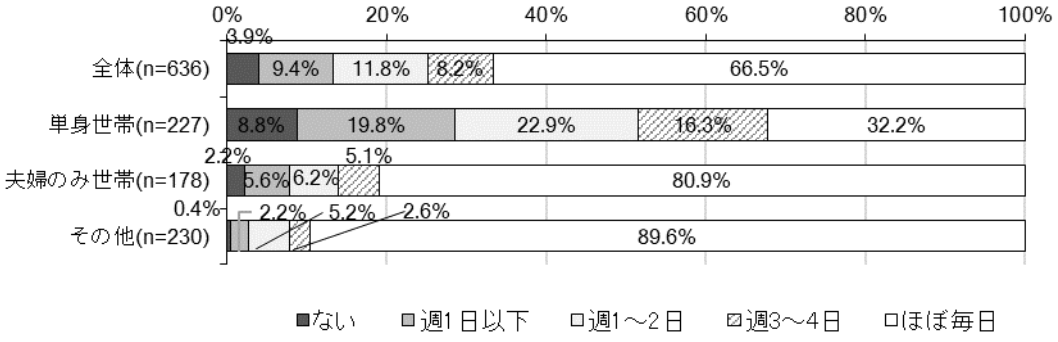
要介護度が重度化すると、単身での在宅生活が困難になっている状況がうかがえる。



（2）家族等による介護の頻度（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）

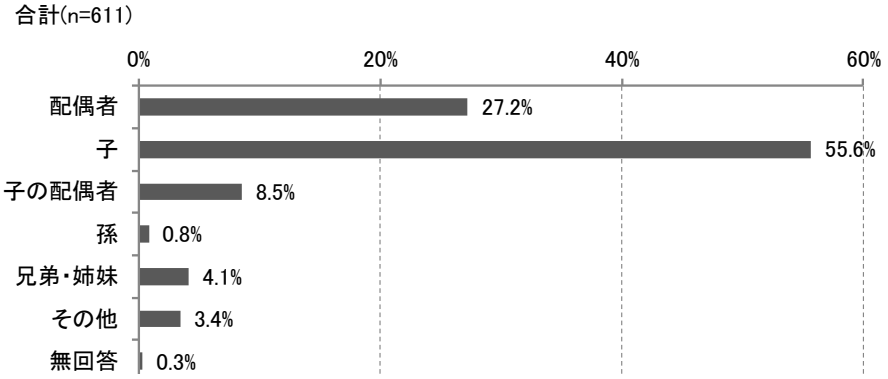
夫婦のみ世帯、その他世帯では「ほぼ毎日」が最も多く、いずれも8割を超えている。

単身世帯でも「ほぼ毎日」が3割を超え、最も多くなっている一方で、「週1～2日」、「週1日以下」の割合も、それぞれ2割程度となっている。



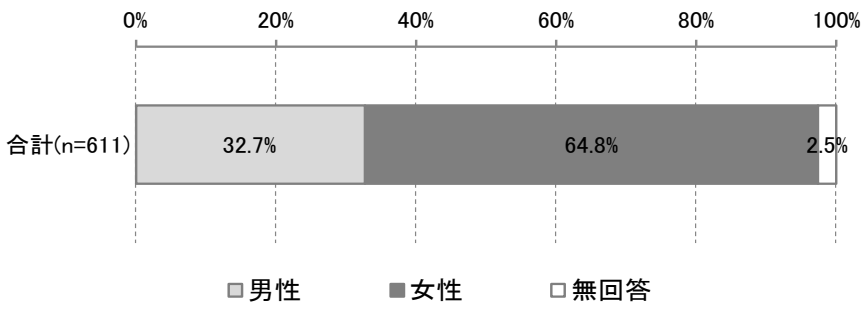
（3）主な介護者と本人との関係（続柄）

「子」が 55.6%と最も多く、次いで「配偶者」の 27.2%となっている。



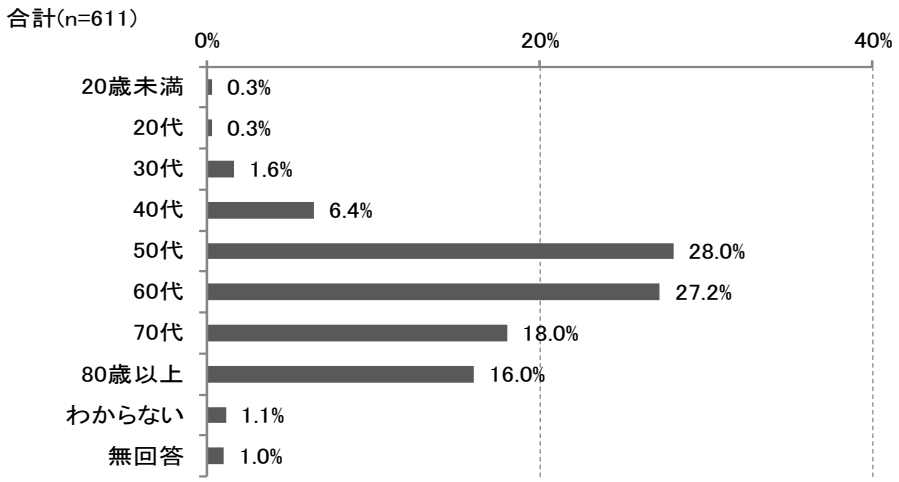
（4）主な介護者の性別

「女性」が 64.8%と 6 割以上を占めている。



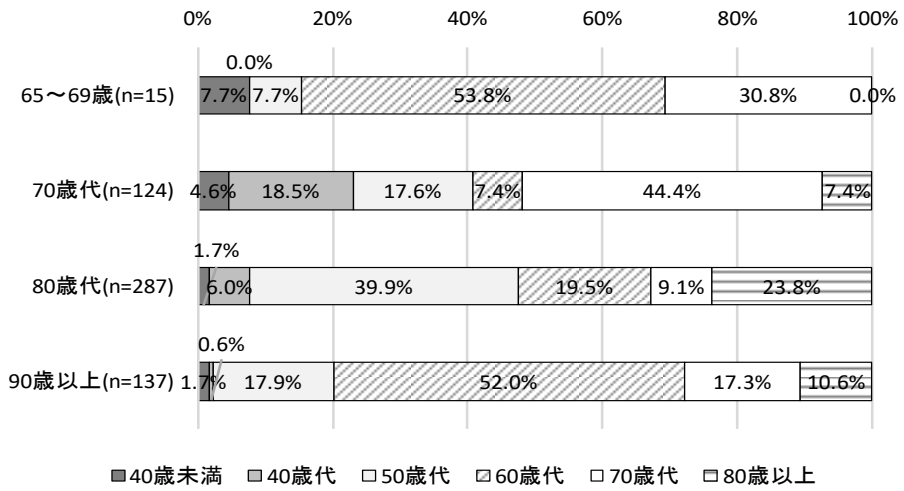
（5）主な介護者の年齢

主な介護者は「50 代」が 28.0%、「60 代」が 27.2%と全体の 55.2%を占めるが、「70 代」以上も3割を超えており、うち「80 歳以上」は 16.0%となっている。



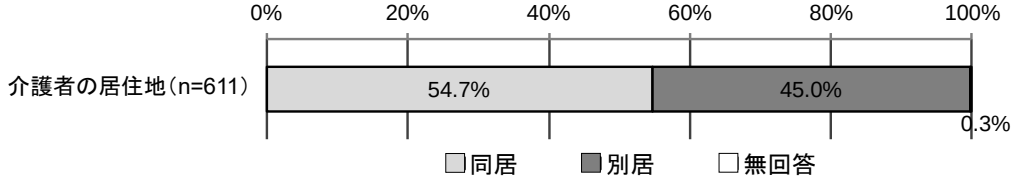
（5）-1　本人の年齢別　主な介護者の年齢

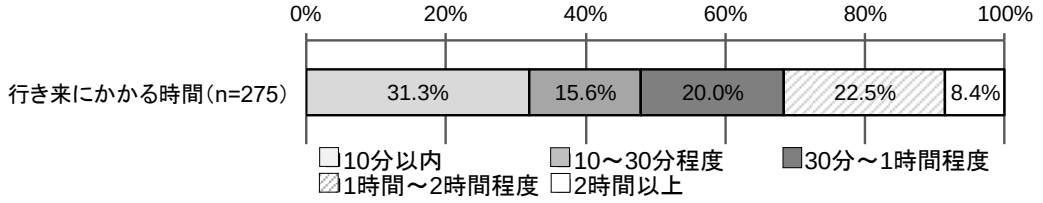
本人の年齢が 70 歳代及び 80 歳代では、「50 歳代」以下の勤労世代が主な介護者である割合が4割を超えている。また、80 歳代では、主な介護者が「80 歳以上」の割合も2割を超えている。



（6）主な介護者の居住地

「同居」が 54.7%となっている。「別居」の場合、行き来にかかる時間は「10 分以内」が 31.3%、「10～30 分程度」が 15.6%で、30 分以内の距離に居住している割合は 46.9%となっている。

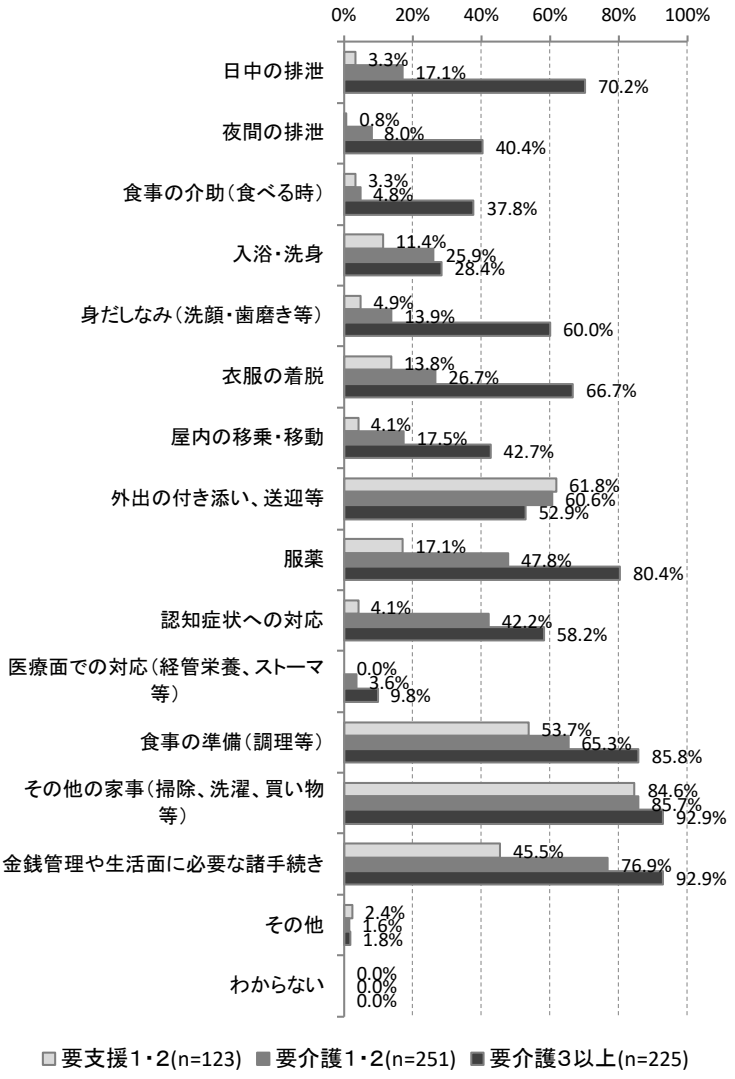




（7）主な介護者が行っている介護

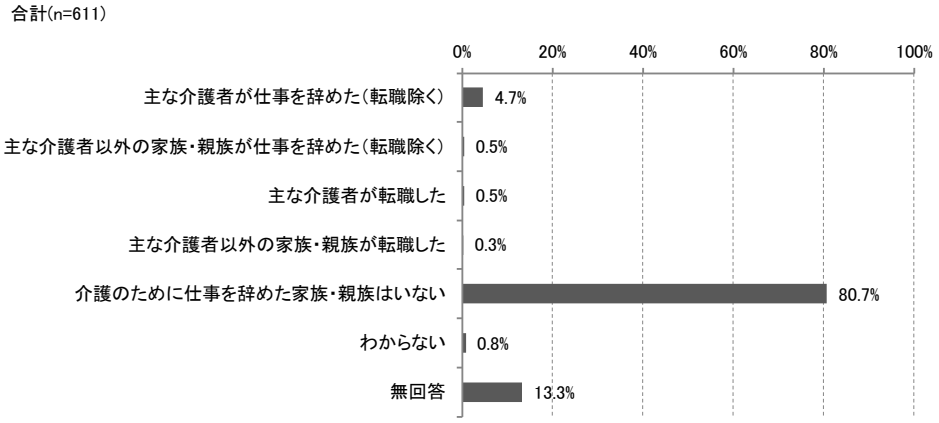
要支援1・2、要介護1・2では「食事の準備（調理等）」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」などの生活支援や「外出の付き添い、送迎等」が多くなっている。

要介護3以上になると、こうした生活援助に加え「服薬」「衣類の着脱」「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」「（日中や夜間の）排泄」など身体介護を行っている割合も高くなっている。



（8）介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 80.7％で約8割を占めている。



（9）保険外の支援・サービスの利用状況

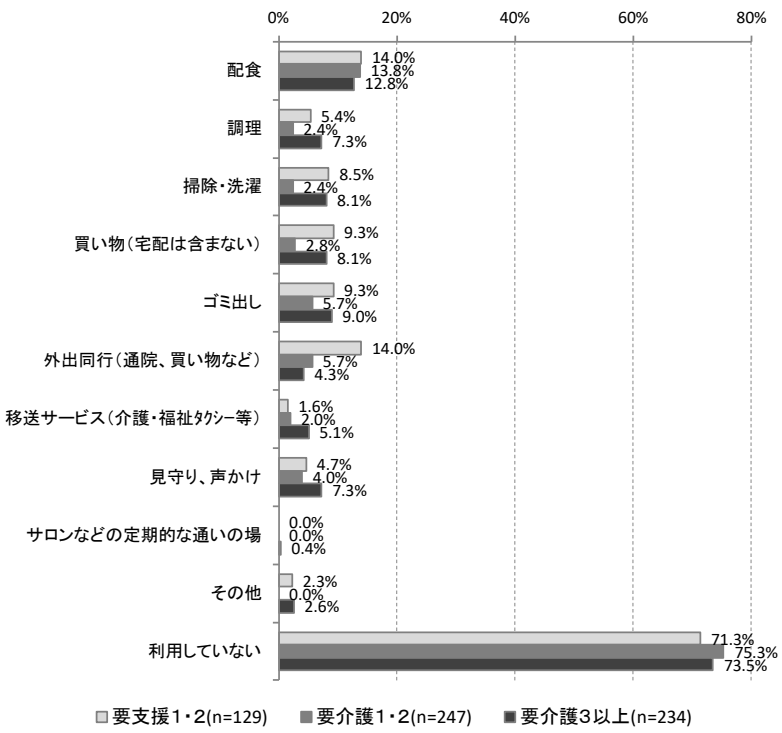
要介護度別にみると、いずれの区分でも「利用していない」が約7割で大きな差は見られない。

世帯類型別にみると、単身世帯では約 35％が何らかの支援やサービスを利用しており、「配食」「ゴミ出し」「外出同行(通院・買い物など)」の順で利用している割合が高い。

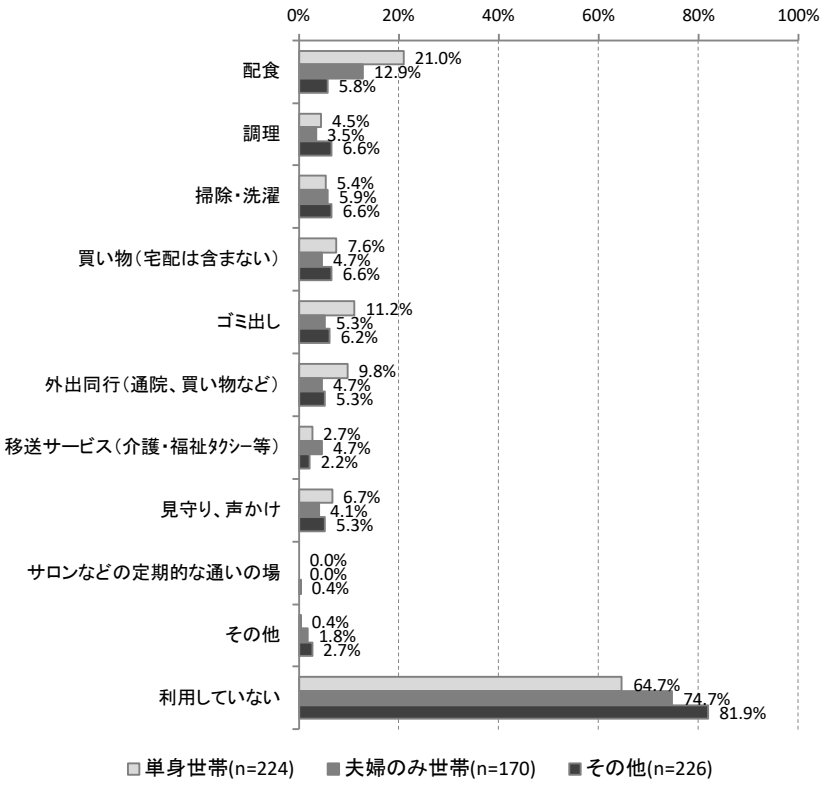
夫婦のみ世帯では「配食」が約 1 割程度、その他世帯では「利用していない」が 81.9％と利用している割合が低い。

「サロンなどの定期的な通いの場」は、いずれの世帯類型でも1％以下と特に低くなっている。

①要介護度別



②世帯類型別



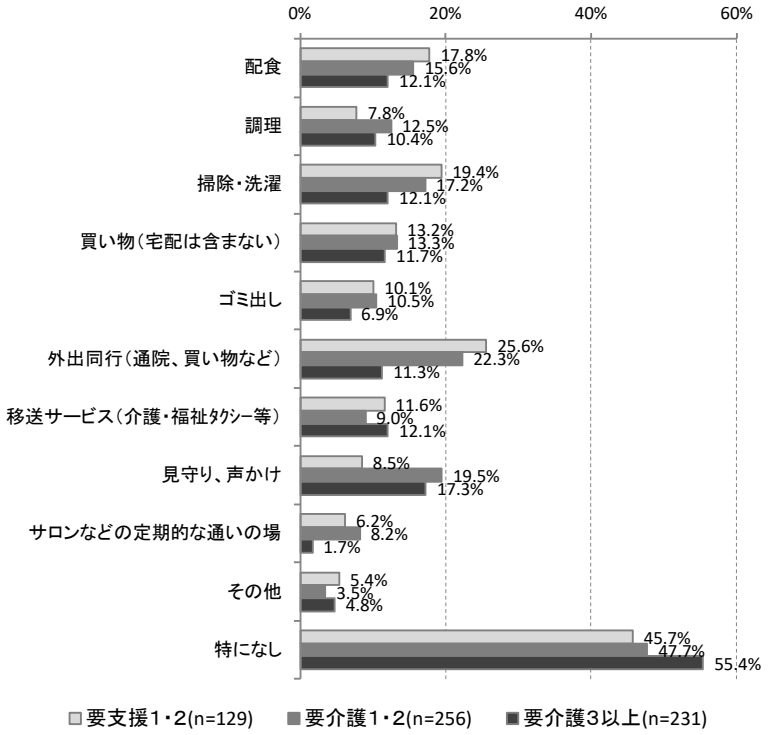
（10）在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

要介護度別にみると、いずれの要介護度においても、「特になし」が最も多くなっている。

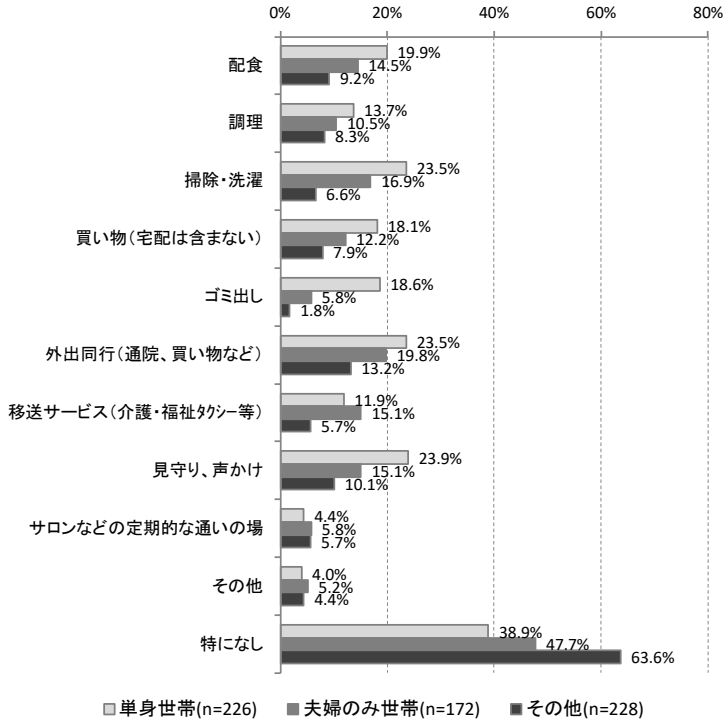
要支援1・2では「外出同行（通院、買い物など）」「掃除・洗濯」「配食」などの割合が高くなっている一方で、要介護3以上では「見守り、声かけ」の割合が高くなっている。

世帯類型別にみると、単身世帯では「見守り、声かけ」「外出同行(通院、買い物など)」「掃除・洗濯」が2割強となっており、夫婦のみ世帯、その他世帯と比較すると、在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービスがあると回答した割合が高くなっている。

①要介護度別



②世帯類型別

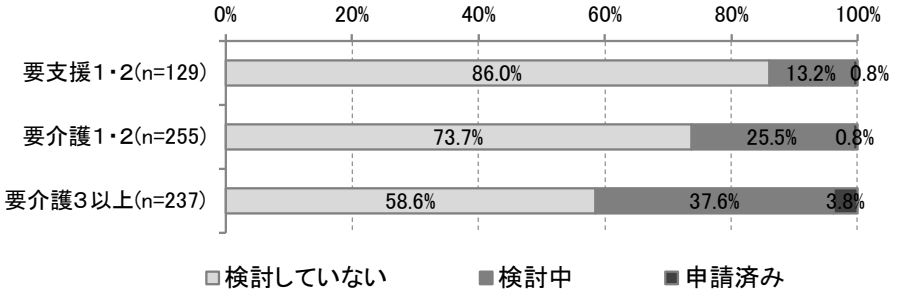


（11）施設入所の検討状況

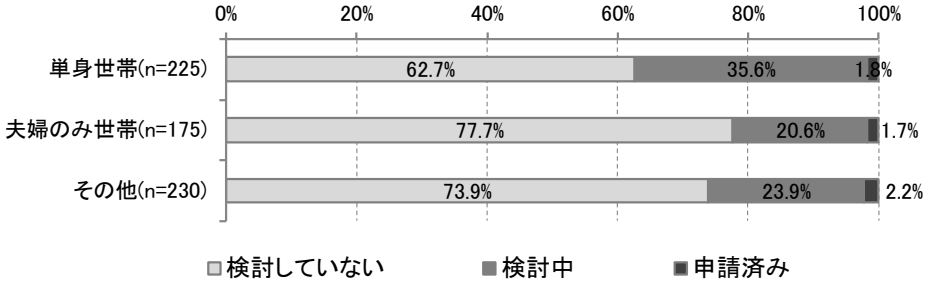
要介護度別にみると、介護度の重度化に伴い、「検討中」「申請済み」の割合が高くなっており、要介護3以上では「検討中」「申請済み」を合わせた割合は4割を超えている。

世帯類型別に見ると、「検討中」「申請済み」の割合が最も高いのは、単身世帯で3割を超えているが、夫婦のみ世帯では、約2割にとどまっている。「検討していない」の割合が最も多いのは、夫婦のみ世帯の 77.7%、次いで、その他世帯の 73.9%となっている。

①要介護度別

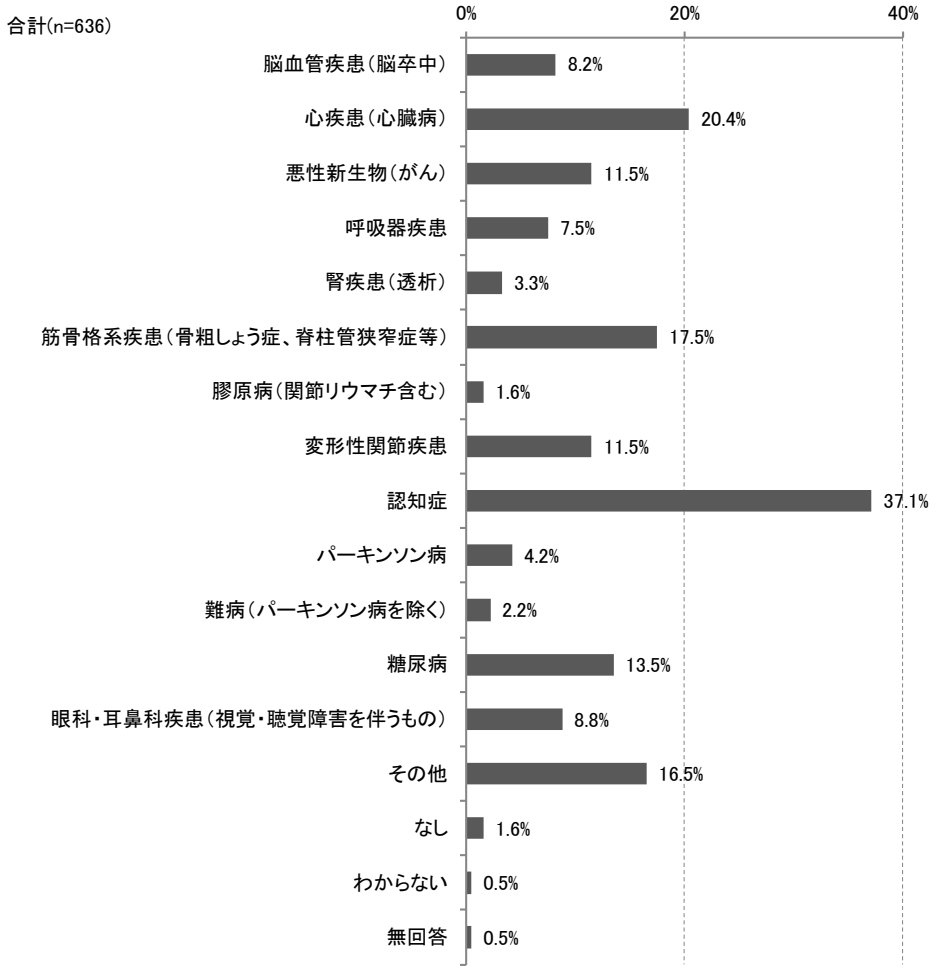


②世帯類型別



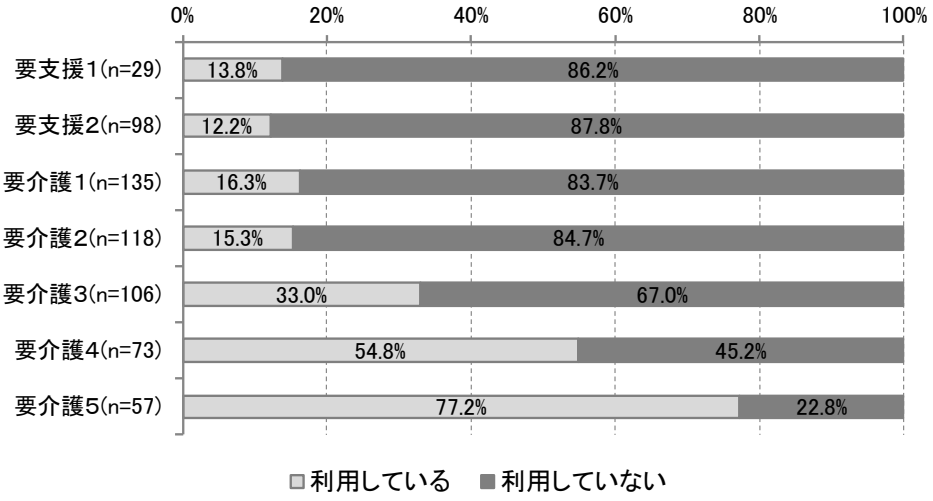
（12）本人が抱えている傷病

「認知症」が 37.1％で最も多く、次いで「心疾患(心臓病)」が 20.4％、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が 17.5％となっている。



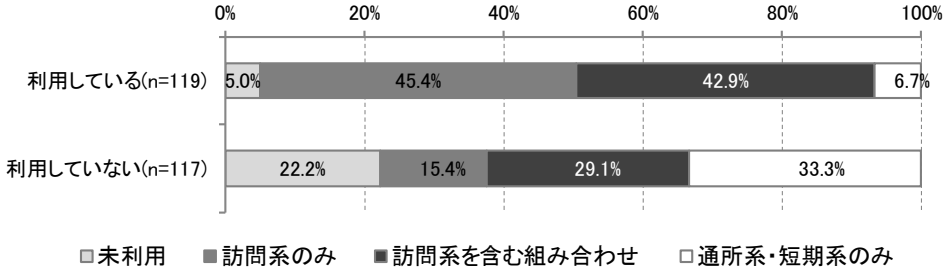
（13）訪問診療の利用の有無

訪問診療を「利用している」割合は、要介護度が重くなるにつれて高くなり、要介護3では約3割、要介護5では7割を超えている。



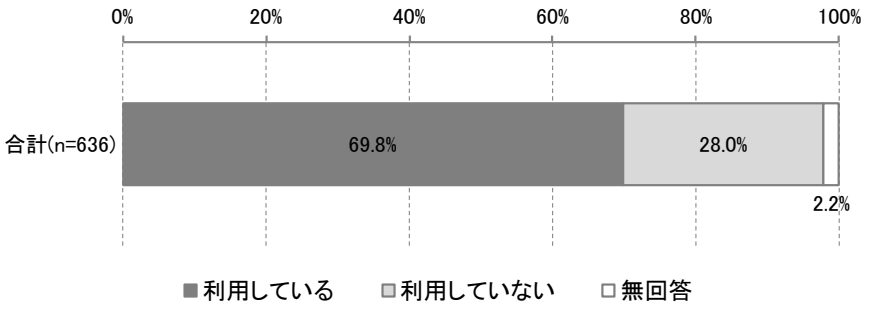
（13）-1 訪問診療の利用の有無と介護サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）

訪問診療を利用している層では、「訪問系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」が多く、「通所系・短期系のみ」のサービスを利用している割合は少ないが、訪問診療を利用していない層では、約3割が「通所系・短期系のみ」の介護サービスを利用している。



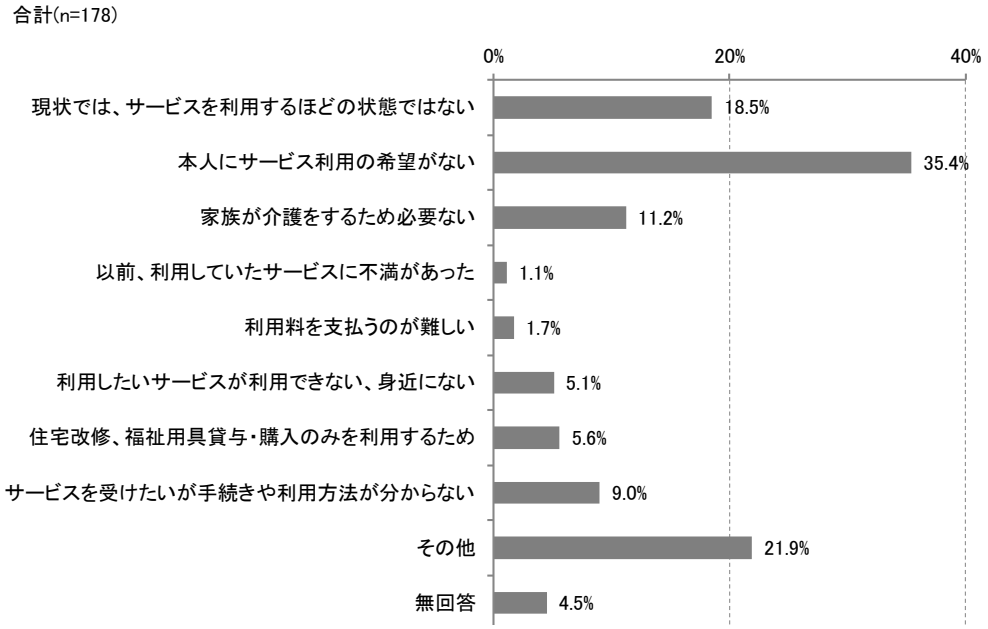
（14）介護保険サービスの利用の有無

介護保険サービスを「利用している」は 69.8%で約7割となっている。



（15)介護保険サービス未利用の理由

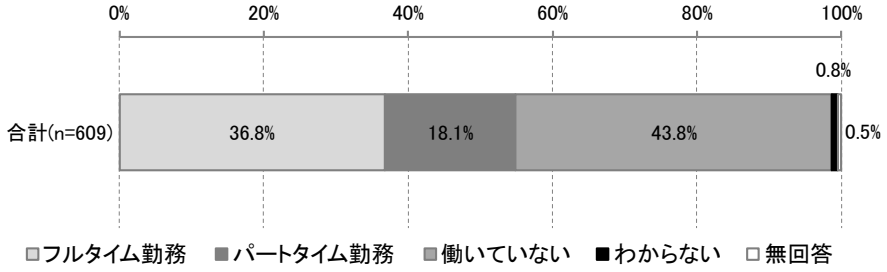
「本人にサービス利用の希望がない」が 35.4%と最も多く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 18.5%となっている一方で、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」との回答が9.0%となっている。



２　主な介護者の就労状況（Ｂ票）

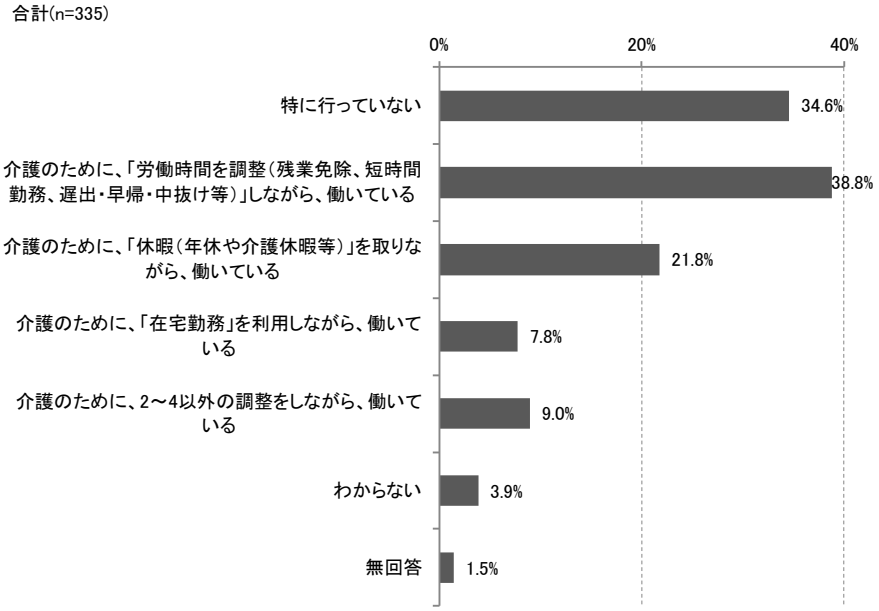
（1）主な介護者の就労の有無・勤務形態

「フルタイム勤務」が 36.8%、「パートタイム勤務」が 18.1%で、就労している人は 54.9%と5割を超えている。



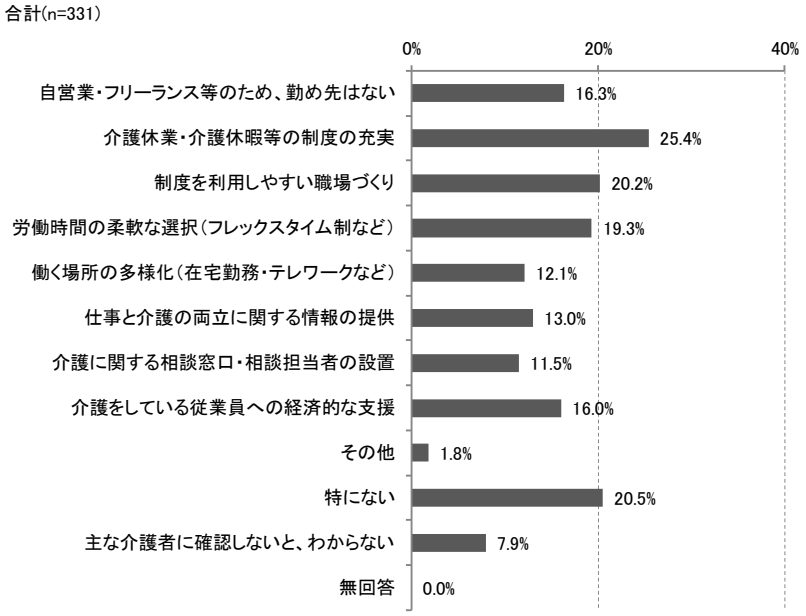
（2）働き方の調整の状況

「労働時間を調整」が 38.8%と最も多く、次いで「特に行っていない」が 34.6%となっている。



（3）就労の継続に向けて効果的な勤め先からの支援

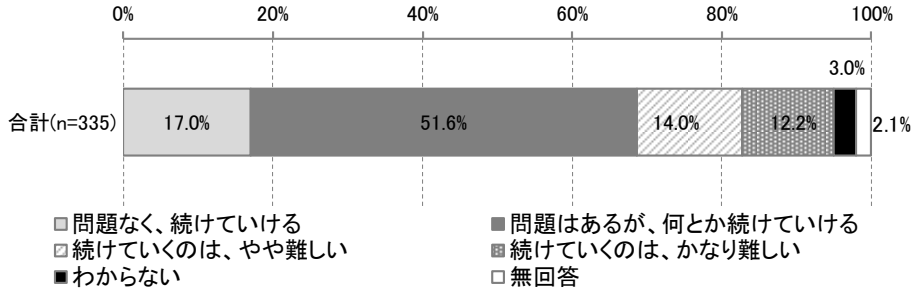
「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 25.4%、「制度を利用しやすい職場づくり」が 20.2%と多くなっている。



（4）就労継続の見込み

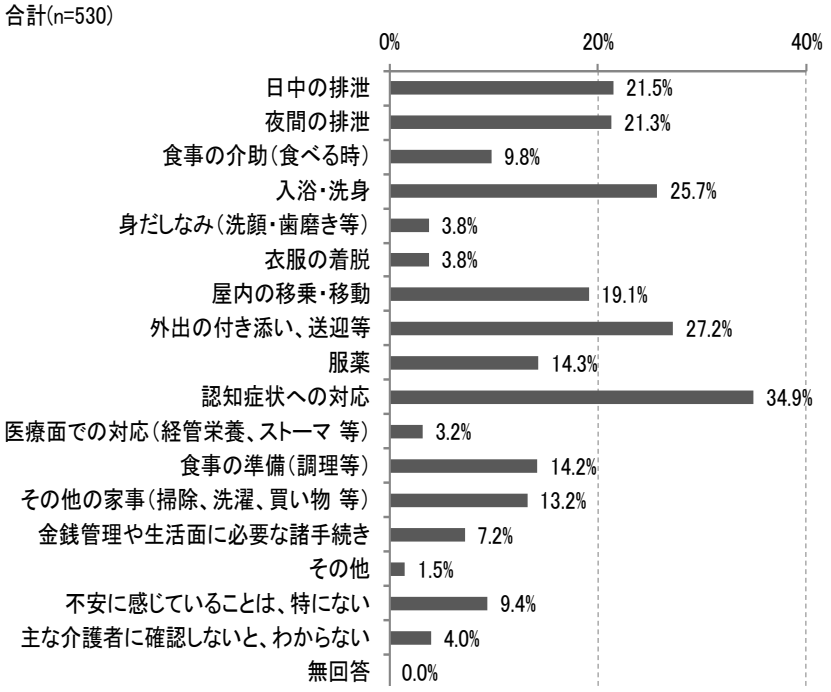
「問題はあるが、何とか続けていける」が 51.6％と最も多く、半数を超えている。

継続に困難を感じている「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた割合は 26.2％となっている。



（5）今後の在宅生活の継続に向けて、不安に感じる介護

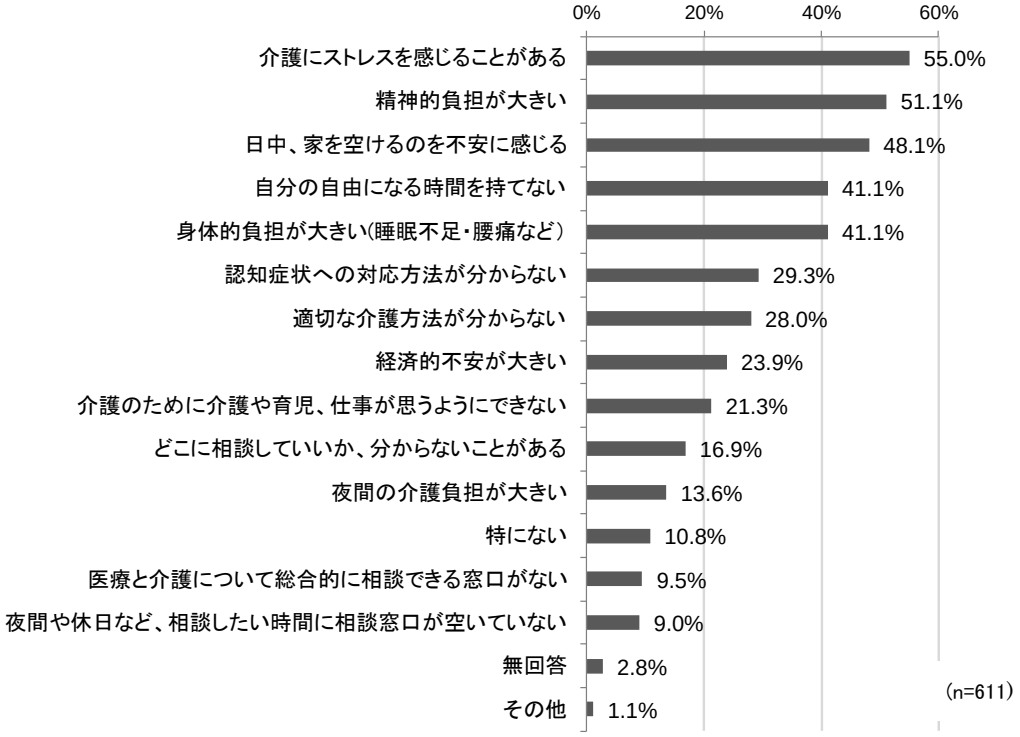
「認知症状への対応」が 34.9％で最も多く、「外出の付き添い、送迎等」27.2%、「入浴・洗身」25.7％が続いている。



（6）介護をするうえで困っていること

主な介護者が困っていることでは、「介護にストレスを感じることがある」が 55.0%、「精神的負担が大きい」が 51.1%、「日中、家を空けるのを不安に感じる」が 48.1%の順で多くなっている。

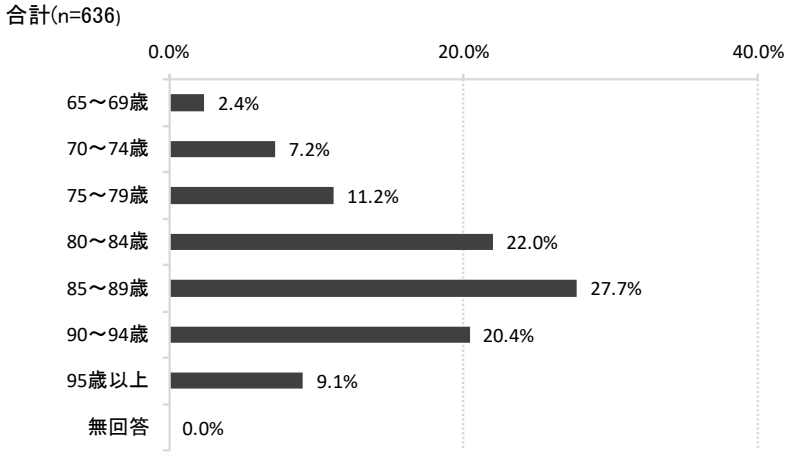
「認知症状への対応方法が分からない」「適切な介護方法が分からない」といった介護方法に関する知識についてもそれぞれ3割弱、「どこに相談していいか、分からないことがある」も 16.9%となっている。



3 介護保険認定データ

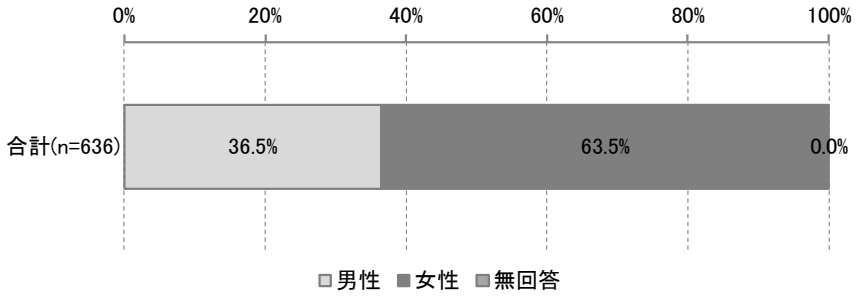
（1）年齢

要介護者の年齢は、「85～89 歳」が 27.7%と最も多く、次いで「80～84 歳」が 22.0%となっており、75 歳以上の後期高齢者は 90.4%を占めている。



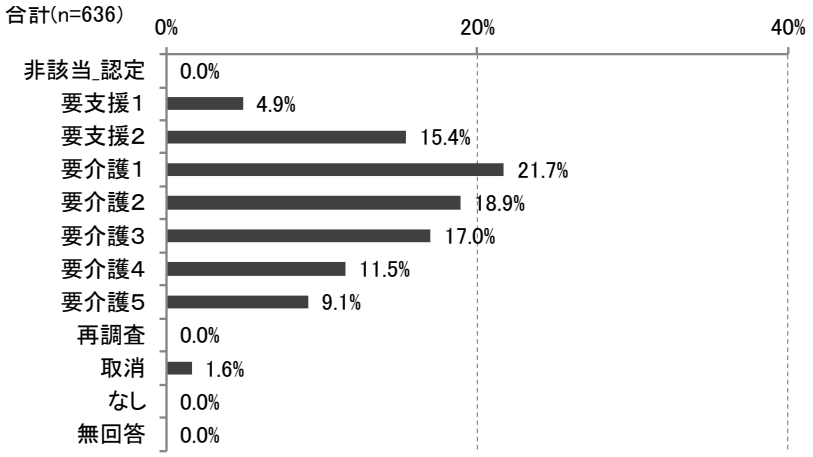
（2）性別

要介護者本人の性別は、「女性」が 63.5%で「男性」36.5%のほぼ2倍となっている。



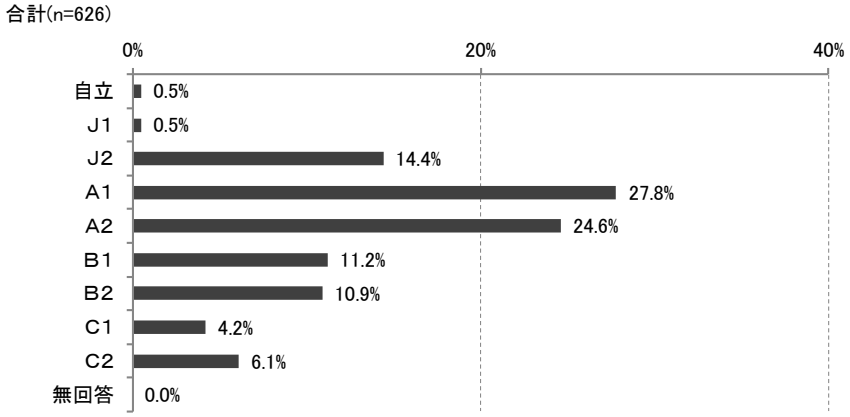
（3）要介護度（二次判定結果）

「要介護1」21.7%、「要介護2」18.9%の順に多く、「要介護3」以上の重度者は 37.6%である。



(4)障がい高齢者の日常生活自立度

「A1」が 27.8%、「A2」24.6%が多く、それぞれ2割を超えている。B 及び C ランク(寝たきり)の合計は 32.4%となっている。

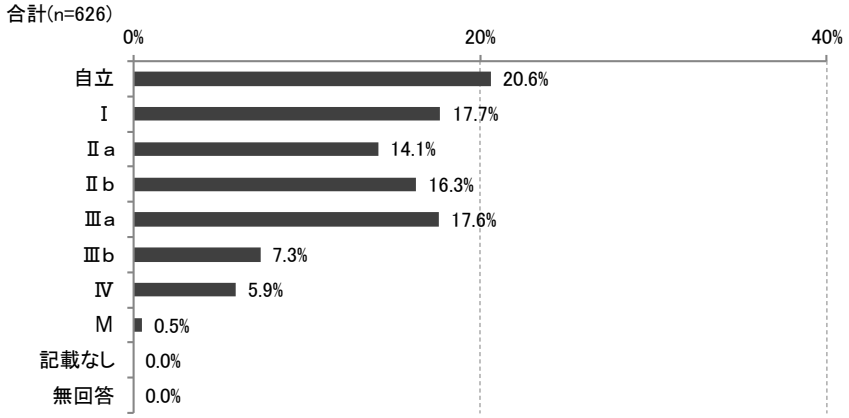


＜障がい高齢者の日常生活自立度＞

用語		説明
J		何らかの障がい等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。
	J1	交通機関等を利用して外出する。
	J2	隣近所へなら外出する。
A		屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。
	A1	介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。
	A2	外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。
B		屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ。
	B1	車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。
	B2	介助により車いすに移乗する。
C		1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。
	C1	自力で寝返りをうつ。
	C2	自力では寝返りもうたない。

(5)認知症高齢者の日常生活自立度

「自立」20.6%、「I」17.7%、「Ⅲa」17.6%の順で多く、「Ⅲa」以上は、全体の 31.3%である。



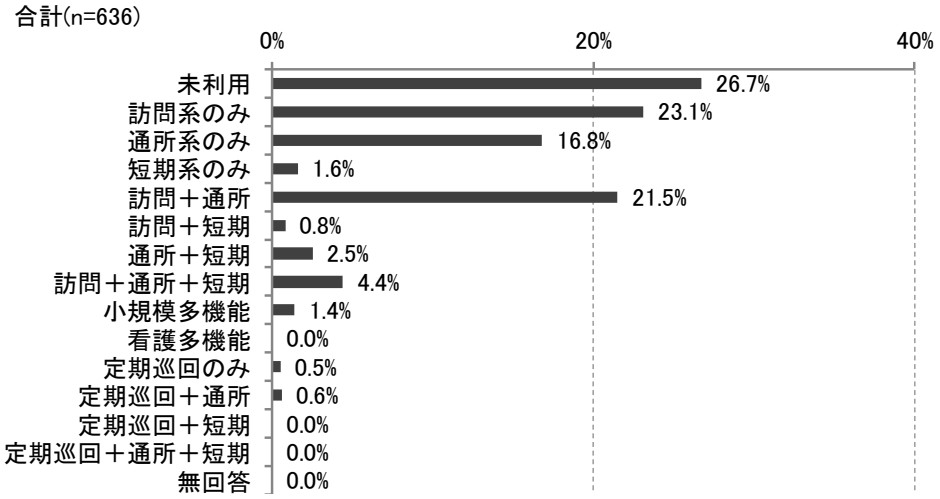
＜認知症高齢者の日常生活自立度＞

用語		説明
Ⅰ		何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している。
Ⅱ		日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
	Ⅱa	家庭外で上記Ⅱの状態が見られる。
	Ⅱb	家庭内でも上記Ⅱの状態が見られる。
Ⅲ		日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。
	Ⅲa	日中を中心として上記Ⅲの状態が見られる。
	Ⅲb	夜間を中心として上記Ⅲの状態が見られる。
Ⅳ		日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ，常に介護を必要とする。
M		著しい精神症状や周辺症状あるいは驚得な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

(6)サービス利用の組み合わせ

サービス利用では「訪問系のみ」が 23.1%と最も多く、次いで「訪問＋通所」21.5%、「通所系のみ」が 16.8%となっている。

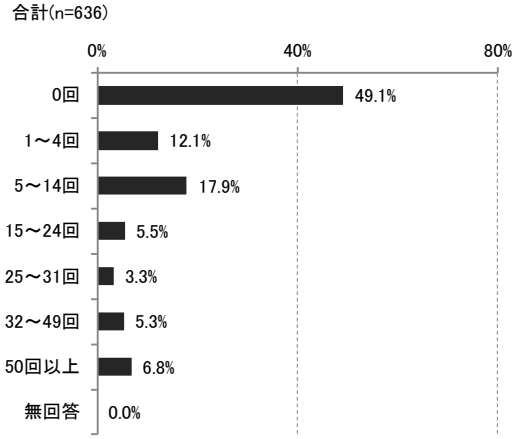
地域密着型サービスである「小規模多機能」は 1.4%、「定期巡回のみ」は 0.5%である。



(7)介護サービスの利用回数(月合計)

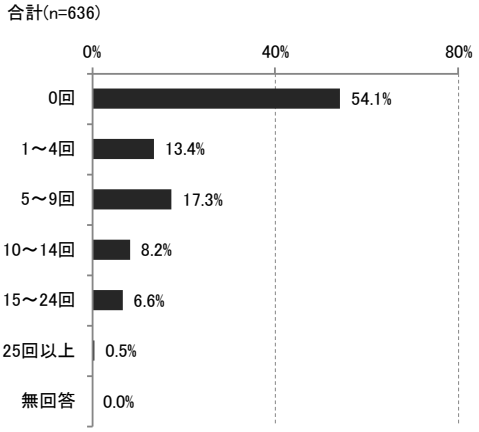
①訪問系サービス

「0回」が 49.1%であるが、利用者の中では「5～14 回」が 17.9%と最も多い。



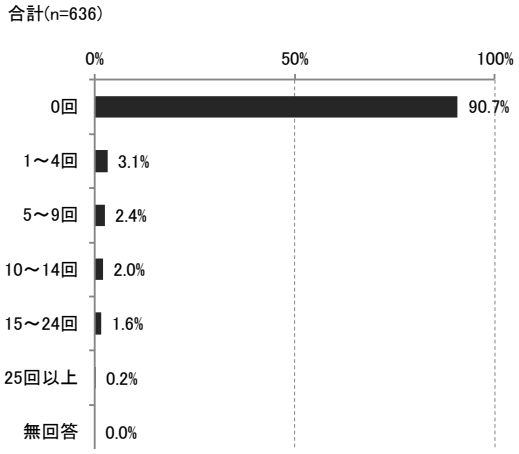
②通所系サービス

「0回」が 54.1%であるが、利用者の中では「5～9回」が 17.3%と最も多い。



③短期系サービスの合計利用回数

「0回」が 90.7%を占めており、利用者の中で最も多いのは「1～4回」3.1%となっている。



4. 検討テーマ別の分析結果

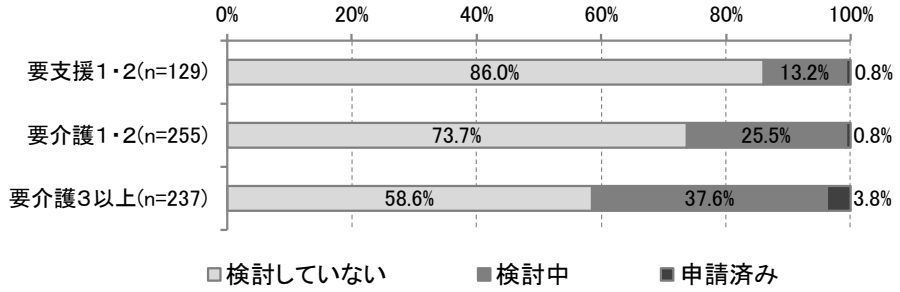
1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

（1）施設入所の検討状況

要介護度別に見ると、介護度の重度化に伴い、施設入所を「検討中」「申請済み」の割合が高くなっている。

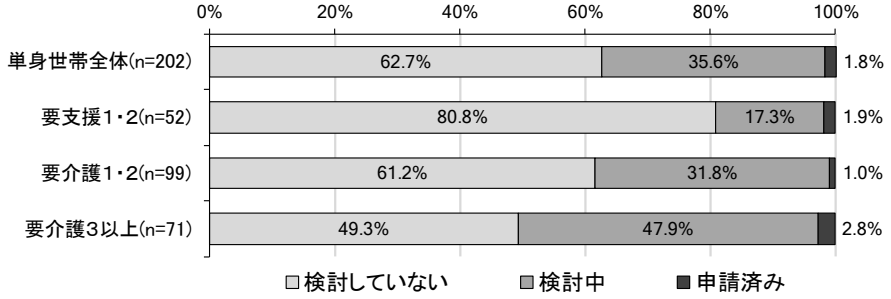
世帯類型別に見ても、重度化に伴って「検討中」「申請済み」の割合が高くなるが、単身世帯、その他の世帯に比べて、夫婦のみ世帯では増加が緩やかであり、要介護3以上でも約7割が施設への入所を「検討していない」と回答している。

①要介護度別

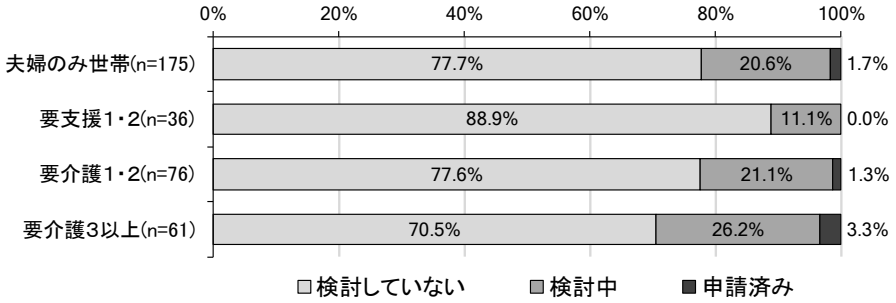


②世帯類型別

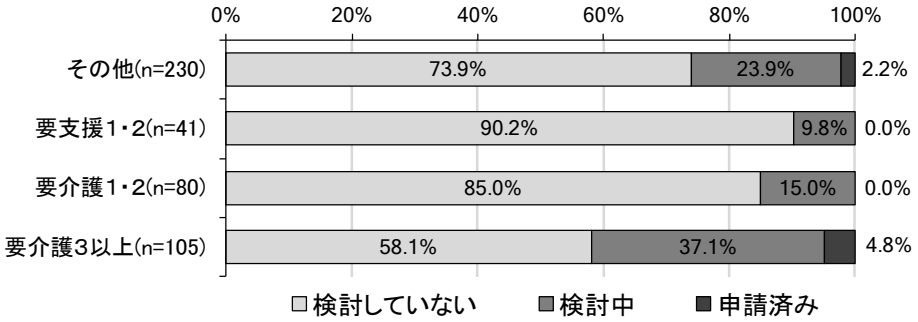
＜単身世帯＞



＜夫婦のみ世帯＞



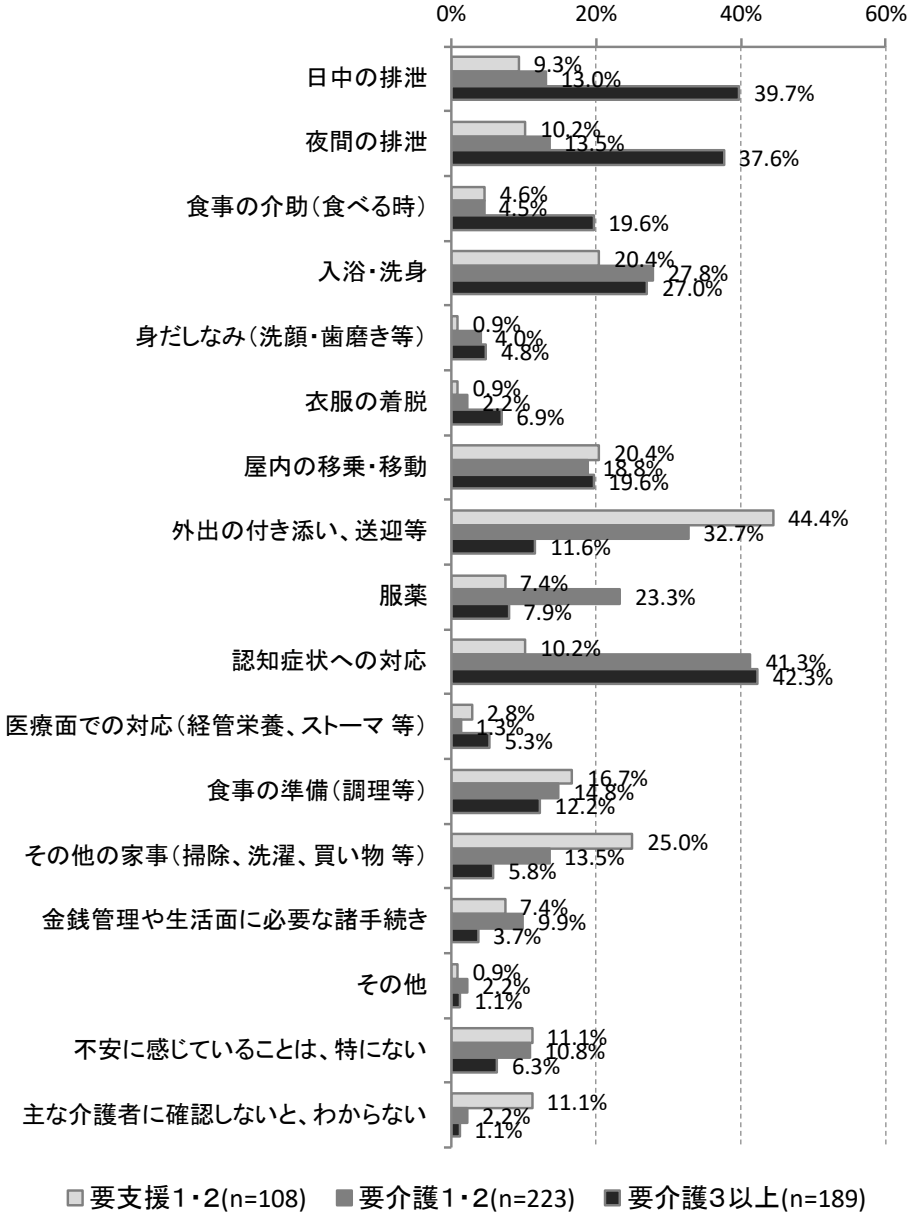
＜その他の世帯＞



（2）介護者が不安に感じる介護（複数回答）

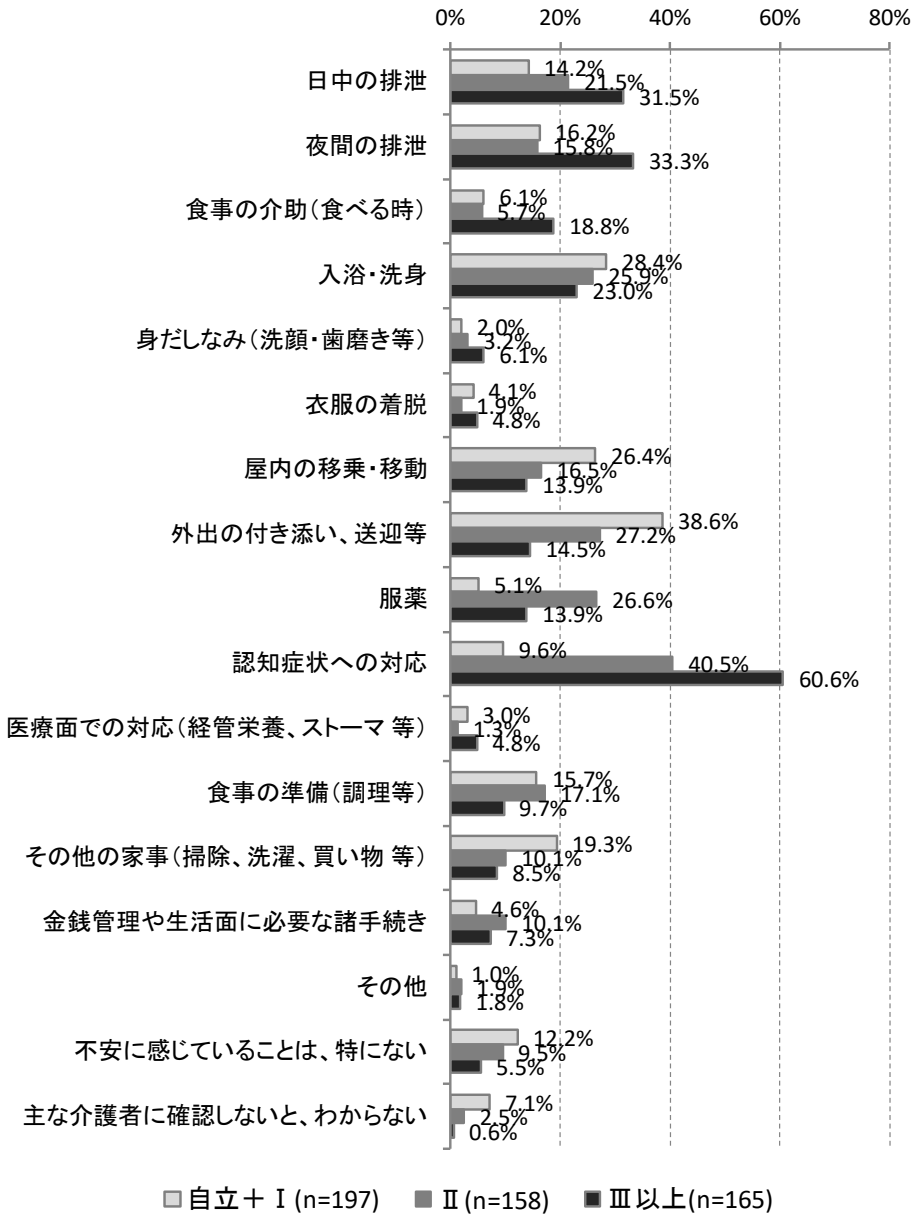
要介護度別に見ると、要支援1・2では「外出の付き添い、送迎等」、要介護1・2では「認知症状への対応」「外出の付き添い、送迎等」「入浴・洗身」が多い。要介護3以上では「認知症状への対応」に加えて、「日中の排泄」「夜間の排泄」への不安が高くなっている。

①要介護度別



②認知症自立度別

認知症自立度別の介護者が不安に感じる介護では、重度化に伴って「認知症状への対応」の増加が顕著である。

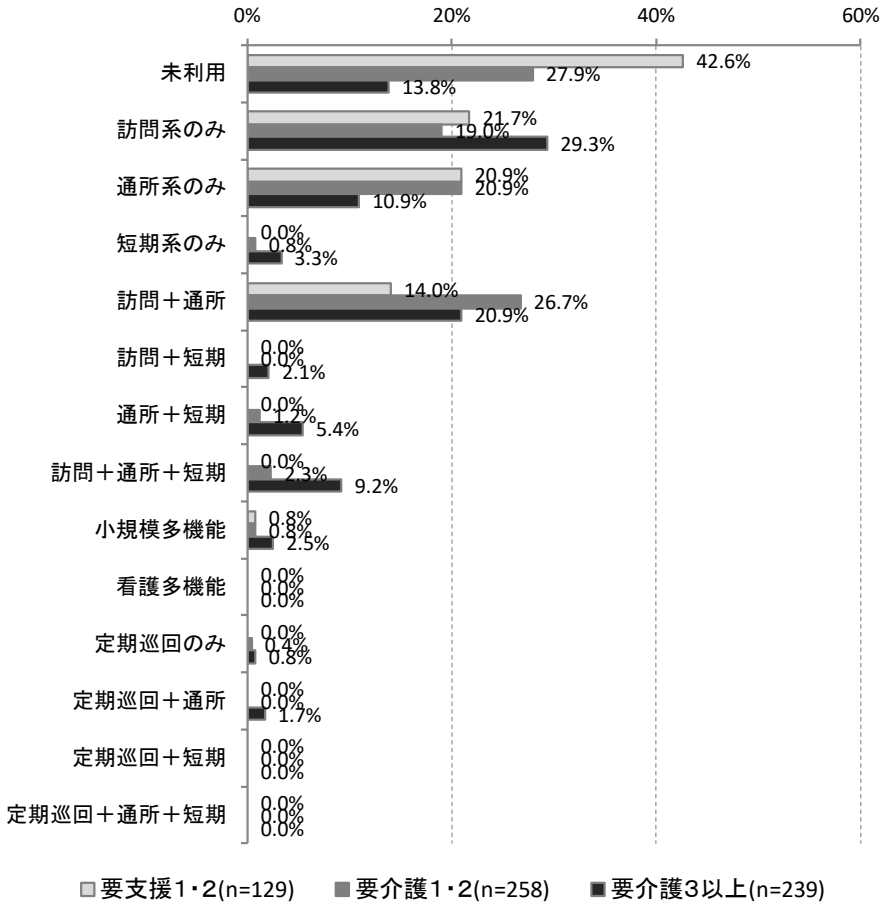


（3）サービス利用の組み合わせ

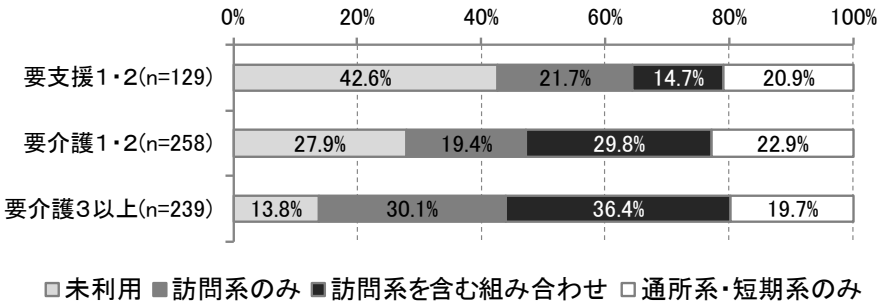
要介護度別に見ると、要支援1・2、要介護1・2では「未利用」が最多で、「訪問系のみ」と「通所系のみ」「訪問＋通所」の利用が高くなっている。

要介護3以上では「訪問系のみ」が最も多く、「短期」「小規模多機能」の利用もやや増えている。

①要介護度別



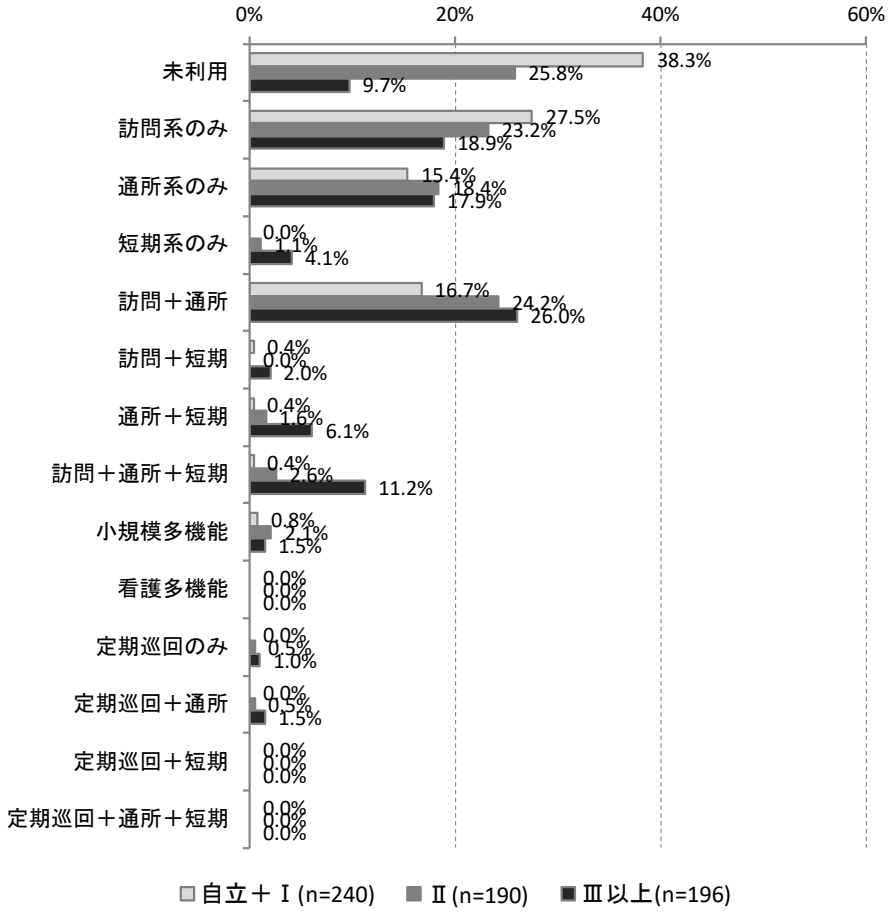
サービス利用の状況を「訪問系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」「通所系・短期系のみ」の3つに簡略化して比較すると、介護度が上がるにつれて「訪問系のみ」と「訪問系を含む組み合わせ」が増えている。



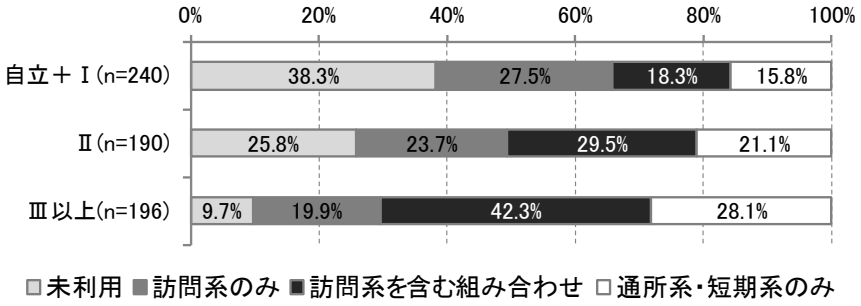
②認知症自立度別

認知症自立度別に見ても、重症化に伴って、「訪問＋通所」の利用が増えているが、特にⅢ以上になると「訪問＋通所＋短期」の利用増が顕著である。

また、Ⅲ以上では「短期」を含む組み合わせの利用も増えている。



サービス利用の状況を「訪問系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」「通所系・短期系のみ」の3つに簡略化して比較すると、要介護度別と同様、重症化に伴って「訪問系を含む組み合わせ」が増えている。また、「通所系・短期系のみ」も増えている。

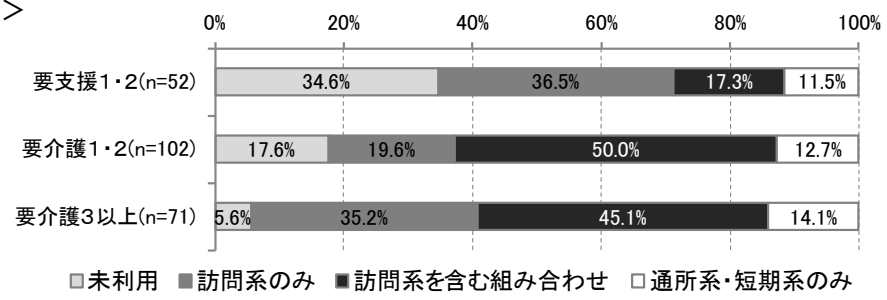


③世帯類型別

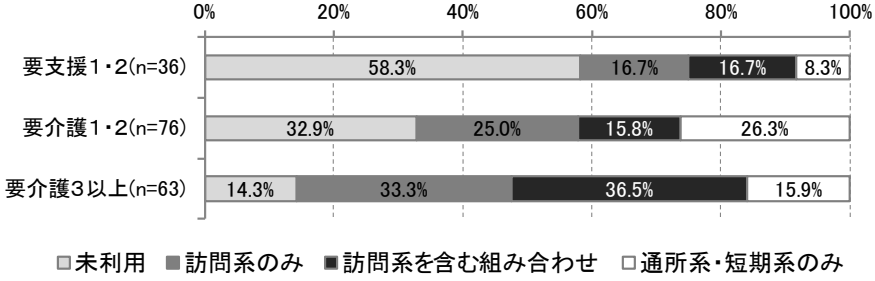
サービス利用の組み合わせを世帯類型別に見ると、いずれの世帯類型においても、要介護度が上がるにつれて「未利用」の割合が減少している一方で、「訪問系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」の利用は増える傾向にある。

その他の世帯では、要介護3以上になっても「通所系・短期系のみ」の利用が3割弱あり、 家族介護者が休息や負担軽減を必要としている状況が読み取れる。

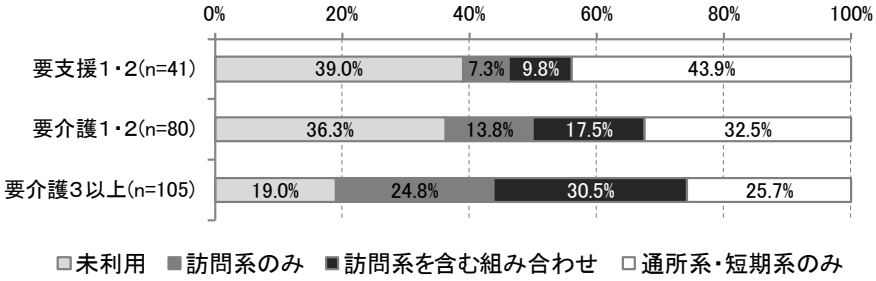
＜単身世帯＞



＜夫婦のみ世帯＞



＜その他の世帯＞

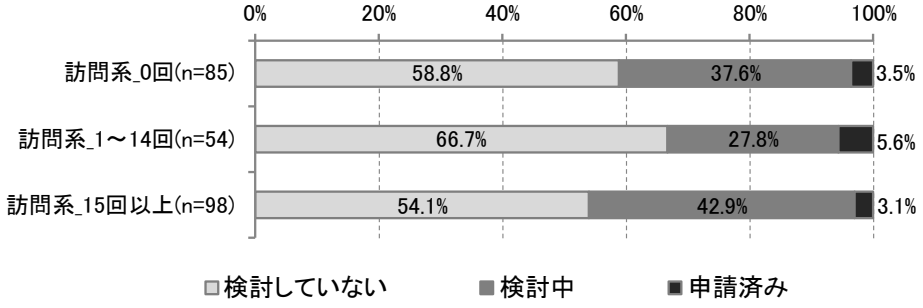


（4）サービス利用回数と施設入所の検討状況（要介護3以上）

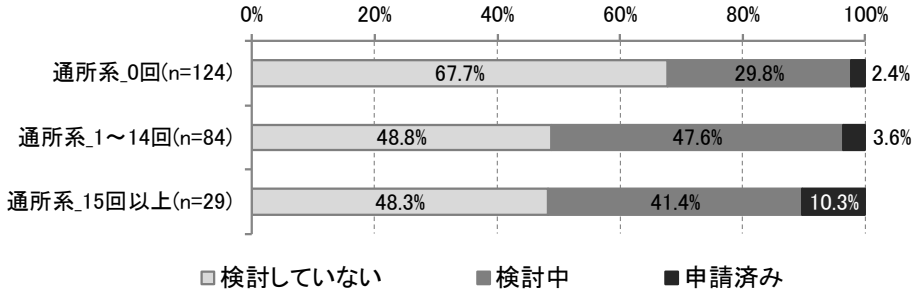
介護サービスの利用回数と施設入所の検討状況の関係を見ると、利用回数が多いほど施設入所を「検討中」「申請済み」の割合が高くなっている。

サービス種類別に見ると、通所系、短期系で「申請済み」の割合が高くなっている。特に、10回以上は施設入所を待機中の者が1割以上となっている。

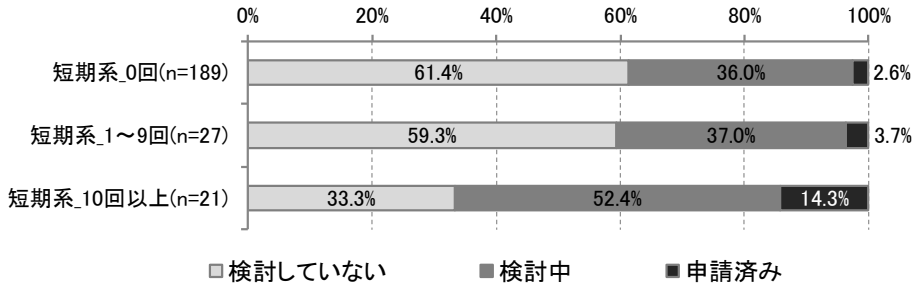
①訪問系サービス



②通所系サービス



③短期系サービス

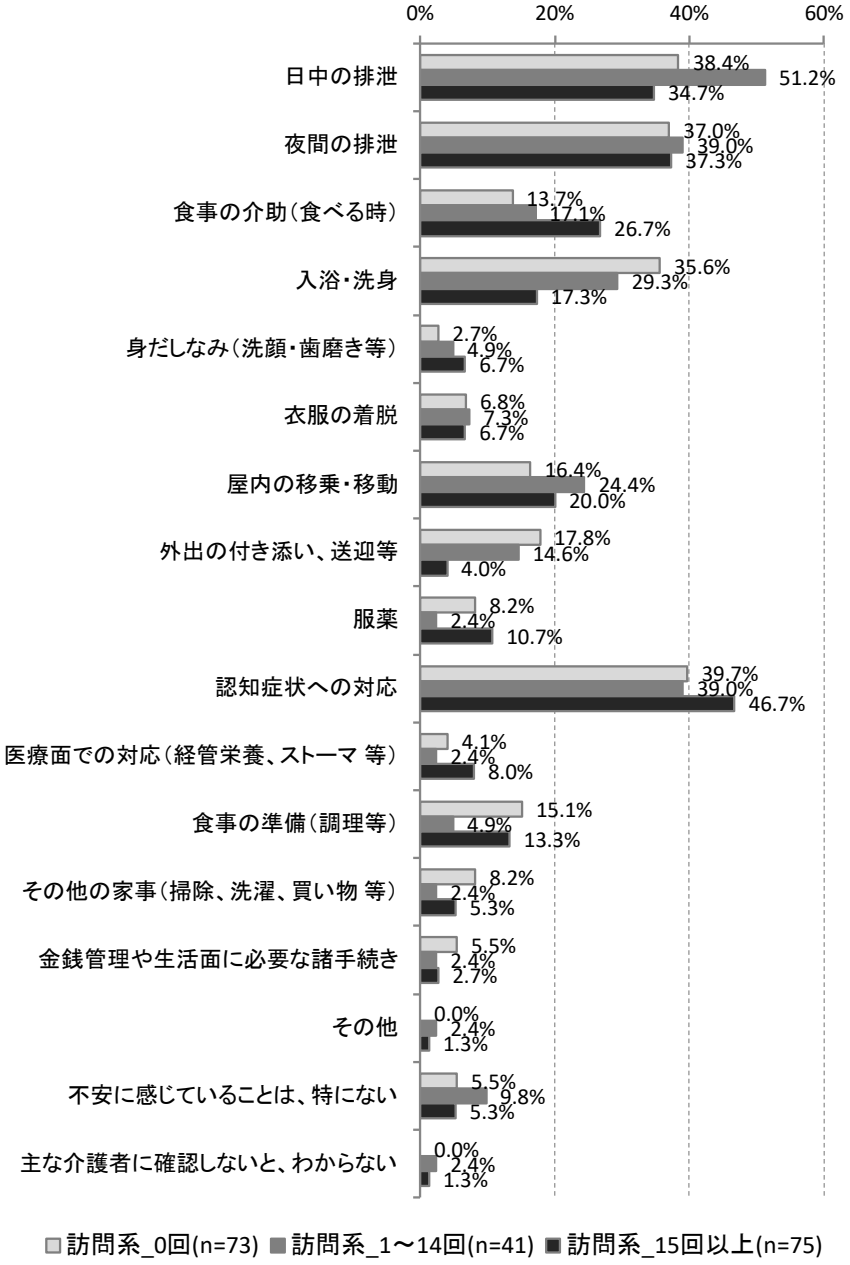


（5）サービス利用回数と介護者が不安に感じる介護（要介護3以上）

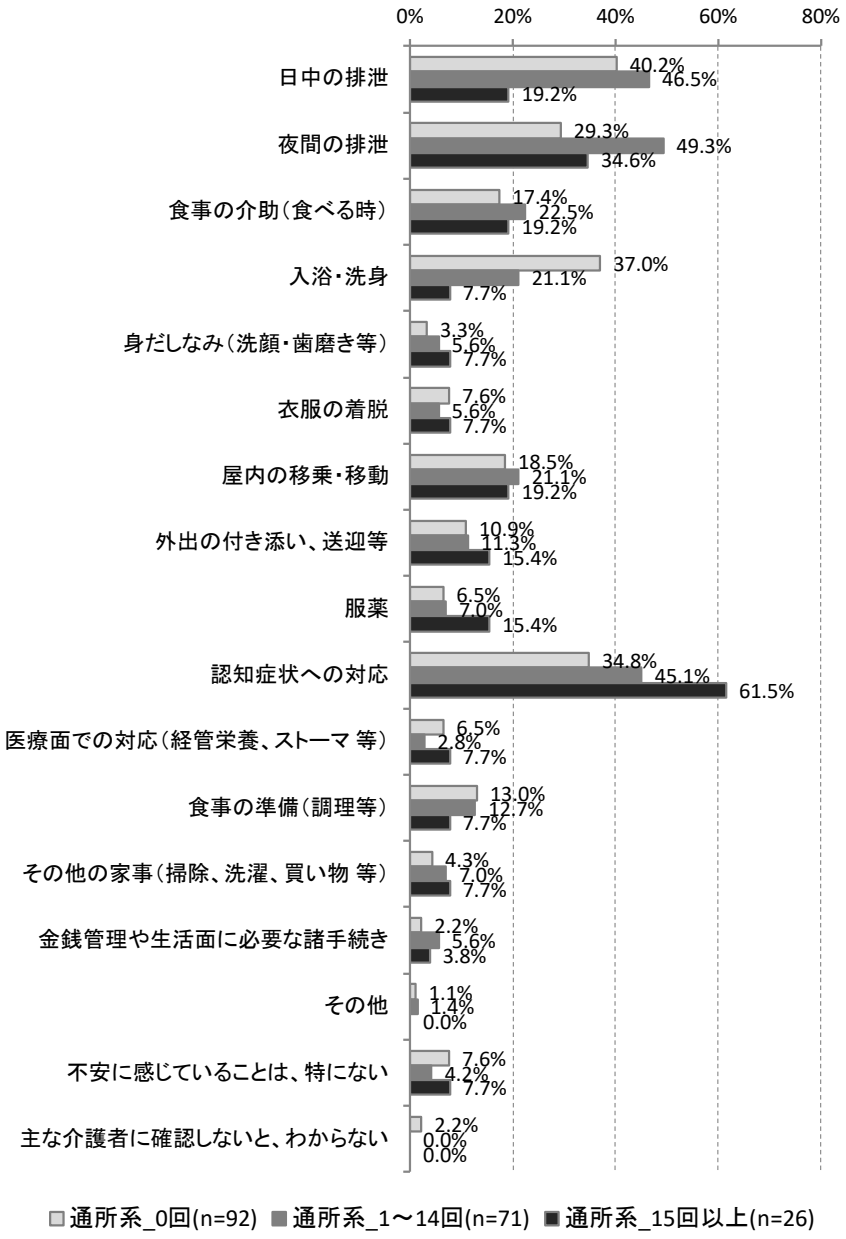
要介護3以上の「サービスの利用回数」と「介護者が不安に感じる介護」の関係を見ると、「認知症状への対応」においては、利用回数が多いほど、不安に感じる割合が高くなるという負の相関が見られた。

頻回に利用する必要性が高い層は、介護への不安も強いということが推測できる。

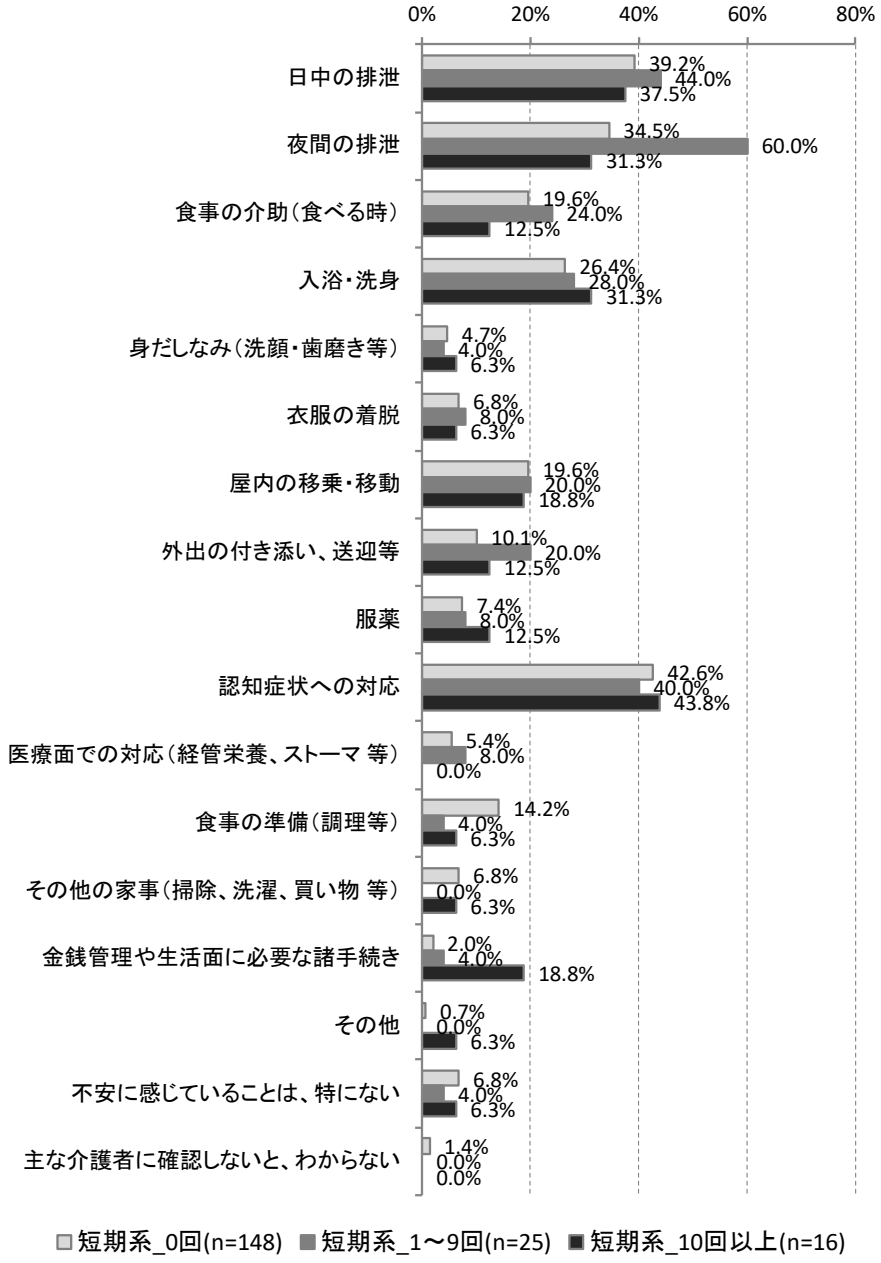
①訪問系サービス



②通所系サービス


0%
20%
40%
60%
80%
日中の排泄
40.2%
46.5%
19.2%
夜間の排泄
29.3%
49.3%
34.6%
食事の介助（食べる時）
17.4%
22.5%
19.2%
入浴・洗身
37.0%
21.1%
7.7%
身だしなみ（洗顔・歯磨き等）
3.3%
5.6%
7.7%
衣服の着脱
7.6%
5.6%
7.7%
屋内の移乗・移動
18.5%
21.1%
19.2%
外出の付き添い、送迎等
10.9%
11.3%
15.4%
服薬
6.5%
7.0%
15.4%
認知症状への対応
34.8%
45.1%
61.5%
医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）
6.5%
2.8%
7.7%
食事の準備（調理等）
13.0%
12.7%
7.7%
その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）
4.3%
7.0%
7.7%
金銭管理や生活面に必要な諸手続き
2.2%
5.6%
3.8%
その他
1.1%
1.4%
0.0%
不安に感じていることは、特にない
7.6%
4.2%
7.7%
主な介護者に確認しないと、わからない
2.2%
0.0%
0.0%
通所系_0回(n=92)
通所系_1～14回(n=71)
通所系_15回以上(n=26)

③短期系サービス

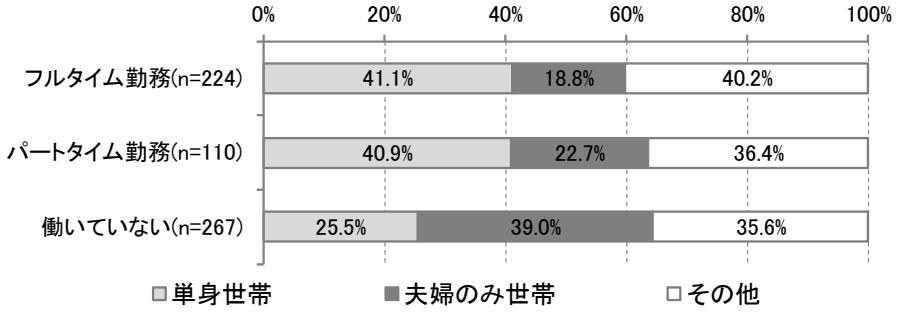

0%
20%
40%
60%
80%
日中の排泄
39.2%
44.0%
37.5%
夜間の排泄
34.5%
60.0%
31.3%
食事の介助（食べる時）
19.6%
24.0%
12.5%
入浴・洗身
26.4%
28.0%
31.3%
身だしなみ（洗顔・歯磨き等）
4.7%
4.0%
6.3%
衣服の着脱
6.8%
8.0%
6.3%
屋内の移乗・移動
19.6%
20.0%
18.8%
外出の付き添い、送迎等
10.1%
20.0%
12.5%
服薬
7.4%
8.0%
12.5%
認知症状への対応
42.6%
40.0%
43.8%
医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）
5.4%
8.0%
0.0%
食事の準備（調理等）
14.2%
4.0%
6.3%
その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）
6.8%
0.0%
6.3%
金銭管理や生活面に必要な諸手続き
2.0%
4.0%
18.8%
その他
0.7%
0.0%
6.3%
不安に感じていることは、特にない
6.8%
4.0%
6.3%
主な介護者に確認しないと、わからない
1.4%
0.0%
0.0%
短期系_0回(n=148)
短期系_1～9回(n=25)
短期系_10回以上(n=16)

2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制

（1）就労状況別　主な介護者の状況

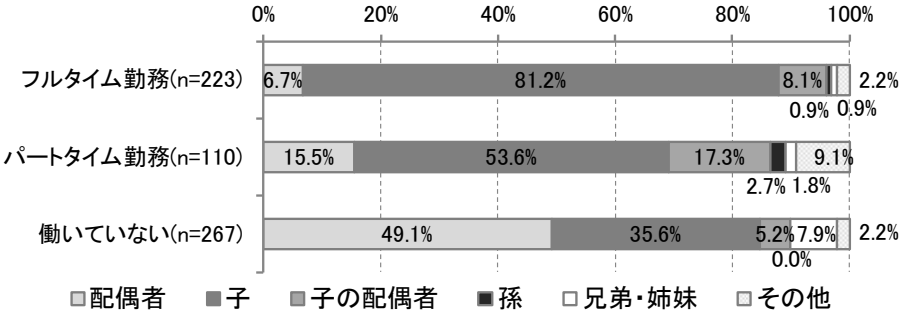
①世帯状況

主な介護者が、フルタイム勤務では「単身世帯」が多く、働いていない層では「夫婦のみ世帯」の割合が相対的に高い。



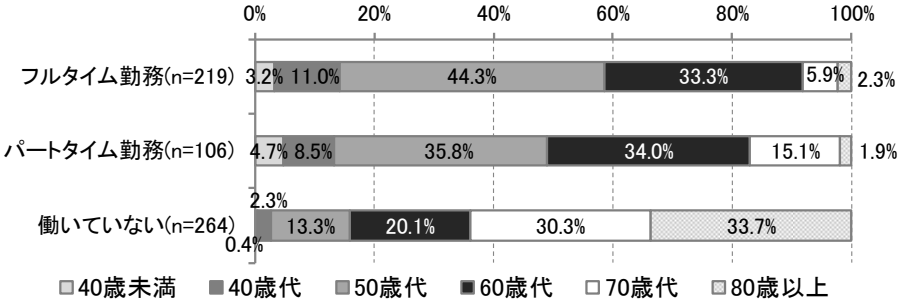
②本人との関係

主な介護者と本人の関係は、フルタイム勤務またはパートタイム勤務の場合は「子」が最も多く、特にフルタイム勤務では8割以上を占めている。介護者が働いていない層では「配偶者」が最も多く、約5割となっている。



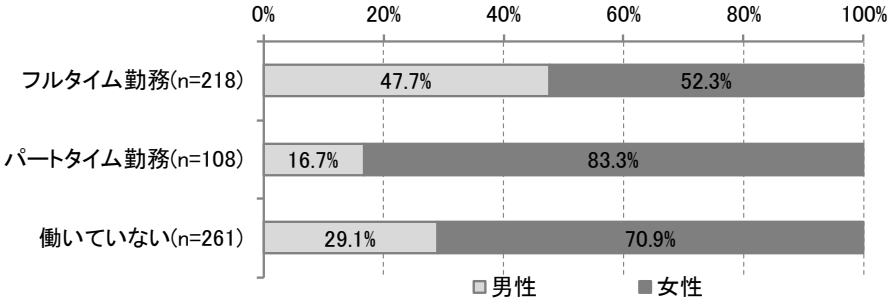
③年齢

主な介護者の年齢は、フルタイム勤務では「50 歳代」が 44.3%と約半数を占め、働いていない層では「80 歳以上」が 33.7%と最も多い。



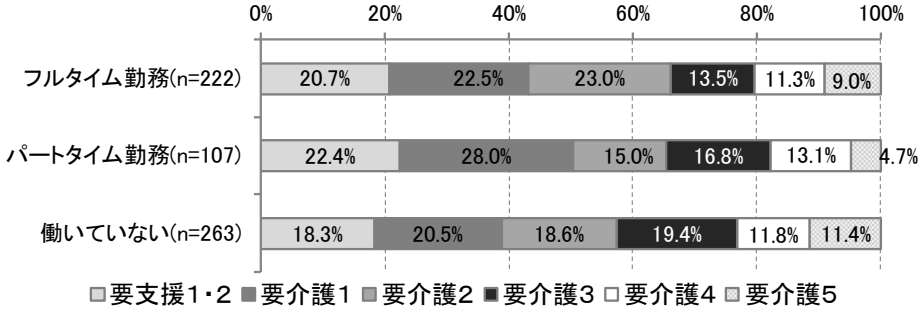
④男女別

いずれの就労状況でも「女性」が多いが、フルタイム勤務では「男性」の割合が高くなっており、パートタイム勤務では約8割が「女性」となっている。



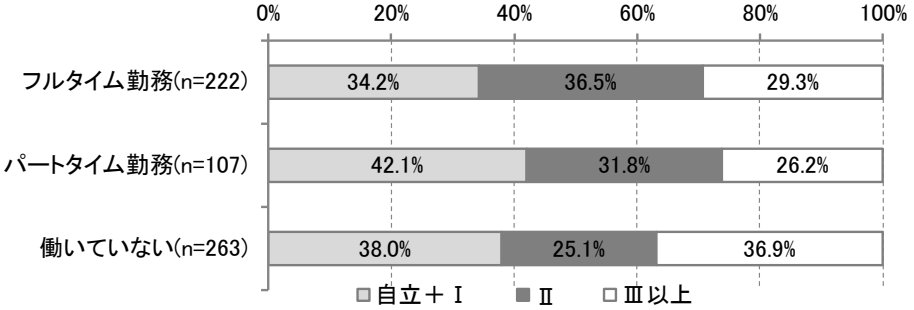
⑤介護している本人の要介護度

「要介護3」以上の方を介護している割合は、働いていない層がやや高い。



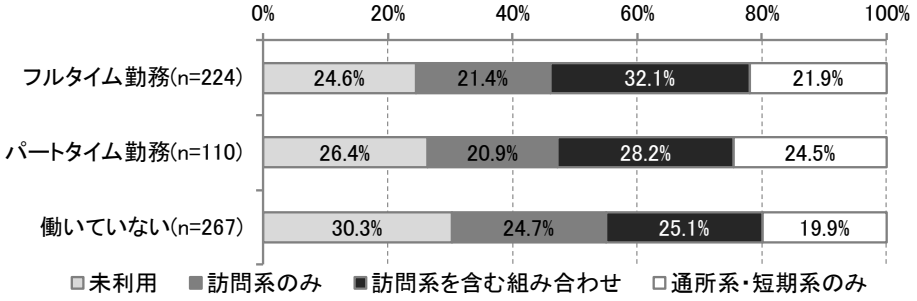
⑥介護している本人の認知症自立度

フルタイム勤務では「自立＋Ⅰ」と「Ⅱ」が同程度で多くなっている。パートタイム勤務では「自立＋Ⅰ」が最も多い。働いていない層では「自立＋Ⅰ」と「Ⅲ以上」が同程度で多くなっている。



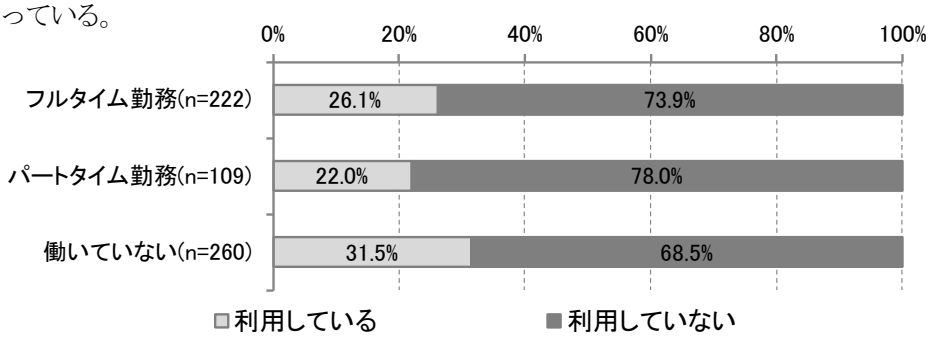
⑦サービス利用の組み合わせ

いずれの就労状況でも「訪問系を含む組み合わせ」の利用が多くなっている。



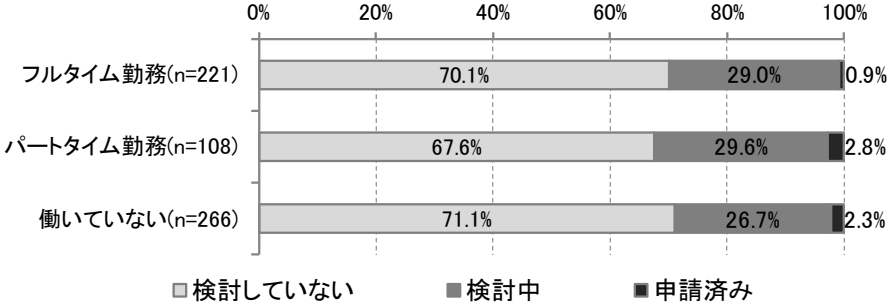
⑧訪問診療の利用

「利用している」の割合は働いていない層が 31.5%、フルタイム勤務が 26.1%、パートタイム勤務は 22.0%となっている。



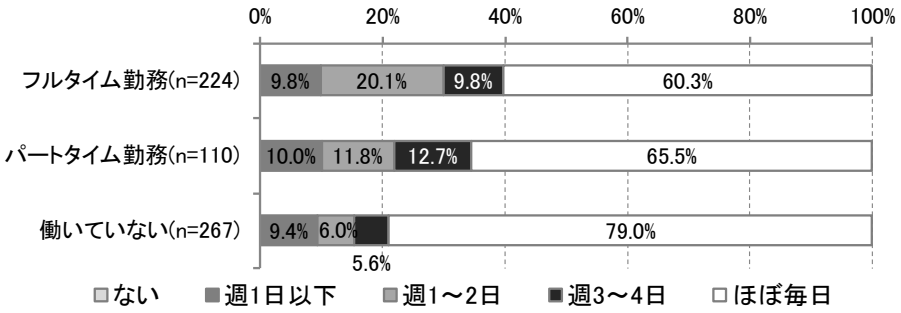
⑨施設入所の検討状況

いずれの就労状況でも「検討中」「申請済み」を合わせた割合は3割程度となっている。



⑩介護の頻度

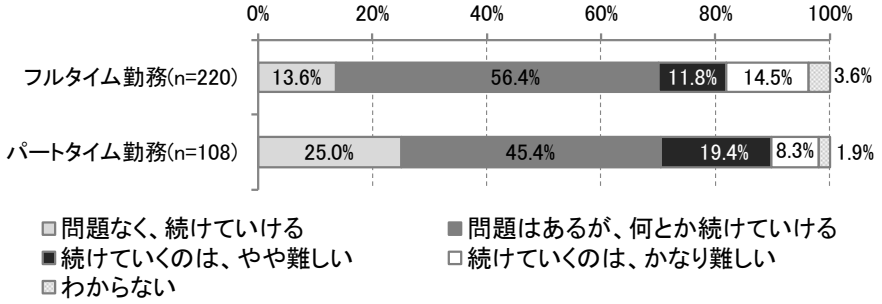
働いていない層の介護頻度は、「ほぼ毎日」が約8割ともっとも多いが、フルタイム勤務でも「ほぼ毎日」が約6割となっている。



（2）就労継続の見込み

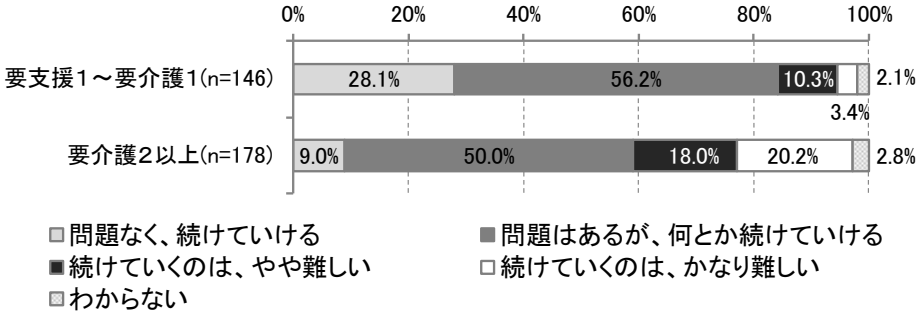
①就労状況別

「続けていくのは、やや難しい」「かなり難しい」を合わせた割合は、フルタイム勤務では 26.3%、パートタイム勤務では 27.7%となっており、フルタイム勤務、パートタイム勤務ともに約3割が就労と介護の両立に困難を感じている。



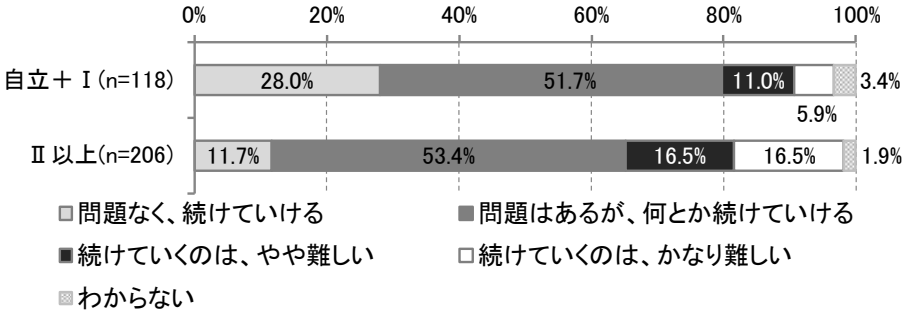
②要介護度別（フルタイム勤務＋パートタイム勤務） 就労継続の見込み

要介護1までは、「続けていくのは、やや難しい」「かなり難しい」は1割程度であるが、さらに、要介護度が重くなると、「続けていくのは、やや難しい」「かなり難しい」の割合が高くなっている。



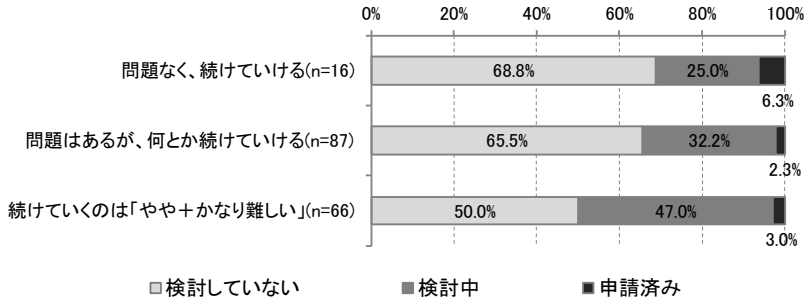
③認知症自立度別（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）

要介護度別同様、認知症状が重くなると「続けていくのは、やや難しい」「かなり難しい」の割合が高くなっている。



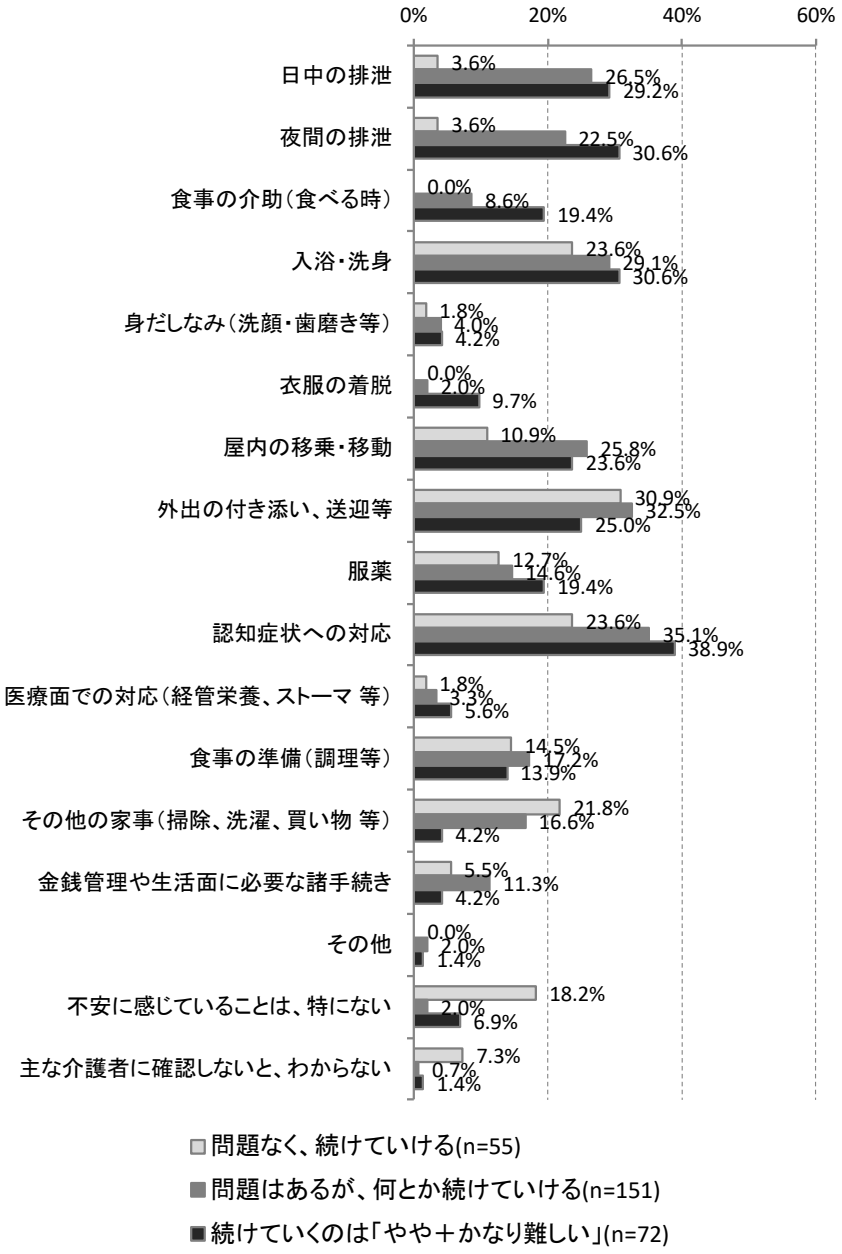
④就労継続見込別・施設入所の検討状況

就労継続が難しくなるにつれて、「検討中」「申請済み」を合わせた割合が多くなっている。



⑤就労継続見込別　介護者が不安に感じる介護

就労継続見込別に不安に感じる介護を見ると、続けていくのは「やや＋かなり難しい」層では、「認知症の対応」が約4割と最も高く、次いで、「入浴・洗身」「夜間・日中の排泄」が約3割となっている。続けている層との乖離が大きいのが、「夜間の排泄」「食事の介助」「服薬」「衣服の着脱」などの日常的な介護である。



⑥就労状況別　介護をするうえで困っていること

就労状況別に困っていることを見ると、全体と比較して、フルタイム勤務では特に「日中、家を空けるのを不安に感じる」割合が高く、働いていない層では「介護にストレスを感じることがある」「精神的負担が大きい」「身体的負担が大きい（睡眠不足・腰痛など）」を感じている割合が高い。

就労継続の見込別でみると、問題はあるが続けていける、続けていくのはやや難しい層では、「日中、家を空けるのを不安に感じる」割合が最も高く、かなり難しい層では「介護にストレスを感じることがある」が最も多くなっている。

＜就労状況別＞

	全体	フルタイム勤務	パートタイム勤務	働いていない
介護にストレスを感じることがある	55.4	48.7	55.5	61.0
精神的負担が大きい	51.2	49.6	44.5	55.4
日中、家を空けるのを不安に感じる	48.4	55.8	40.9	45.3
自分の自由になる時間を持てない	41.6	41.1	31.8	46.1
身体的負担が大きい(睡眠不足・腰痛など)	41.4	32.1	30.0	53.9
認知症状への対応方法が分からない	29.5	32.1	26.4	28.5
適切な介護方法が分からない	28.3	30.8	24.5	27.7
経済的不安が大きい	24.0	28.1	17.3	23.2
介護のために介護や育児、仕事が思うようにできない	21.6	26.8	20.0	18.0
どこに相談していいか、分からないことがある	16.8	16.5	20.0	15.7
夜間の介護負担が大きい	13.6	12.9	10.0	15.7
特にない	10.6	6.3	15.5	12.4
医療と介護について総合的に相談できる窓口がない	9.7	10.7	11.8	7.9
夜間や休日など、相談したい時間に相談窓口が空いていない	9.0	11.2	6.4	8.2
実数(n)	601	224	110	267

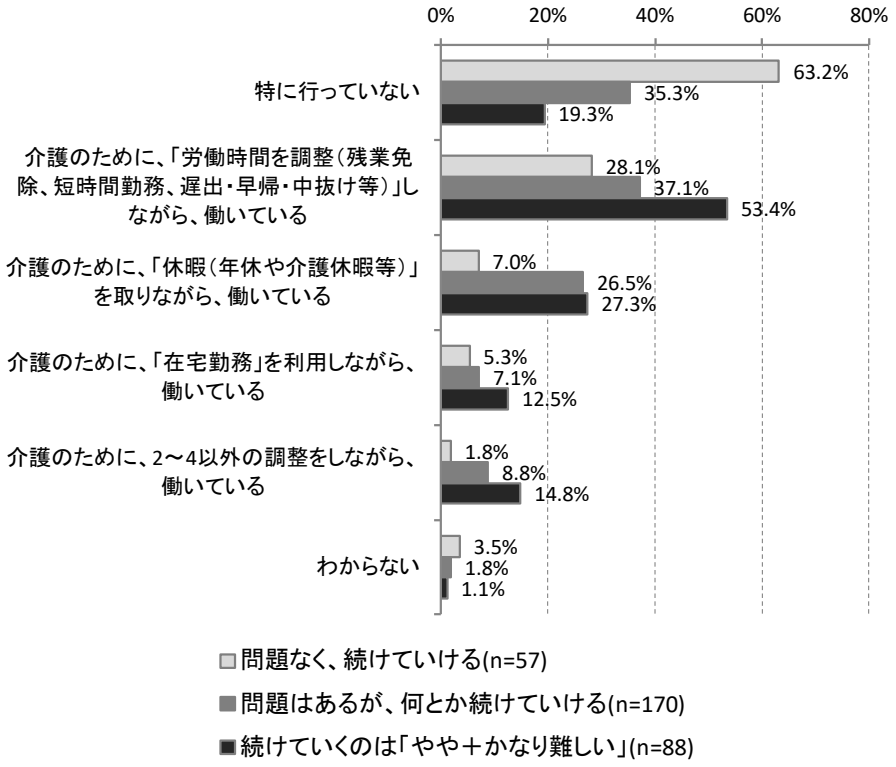
＜就労継続の見込別＞

	全体	問題なく続けていける	問題はあるが続けていける	続けていくのはやや難しい	続けていくのはかなり難しい
介護にストレスを感じることがある	52.1	22.8	50.3	70.2	90.2
日中、家を空けるのを不安に感じる	50.9	17.5	51.5	74.5	80.5
精神的負担が大きい	49.1	17.5	46.2	72.3	85.4
自分の自由になる時間を持てない	38.0	8.8	36.3	59.6	70.7
身体的負担が大きい(睡眠不足・腰痛など)	32.2	10.5	28.7	55.3	56.1
認知症状への対応方法が分からない	30.4	17.5	30.4	38.3	43.9
適切な介護方法が分からない	28.8	19.3	26.3	44.7	41.5
経済的不安が大きい	25.2	12.3	23.4	34.0	46.3
介護のために介護や育児、仕事が思うようにできない	24.8	1.8	19.9	40.4	65.9
どこに相談していいか、分からないことがある	17.8	8.8	17.5	21.3	29.3
夜間の介護負担が大きい	12.3	7.0	9.9	12.8	31.7
医療と介護について総合的に相談できる窓口がない	11.3	12.3	9.4	12.8	19.5
夜間や休日など、相談したい時間に相談窓口が空いていない	9.8	7.0	5.8	14.9	24.4
特にない	9.5	35.1	5.3	0.0	0.0
実数(n)	326	57	171	47	41

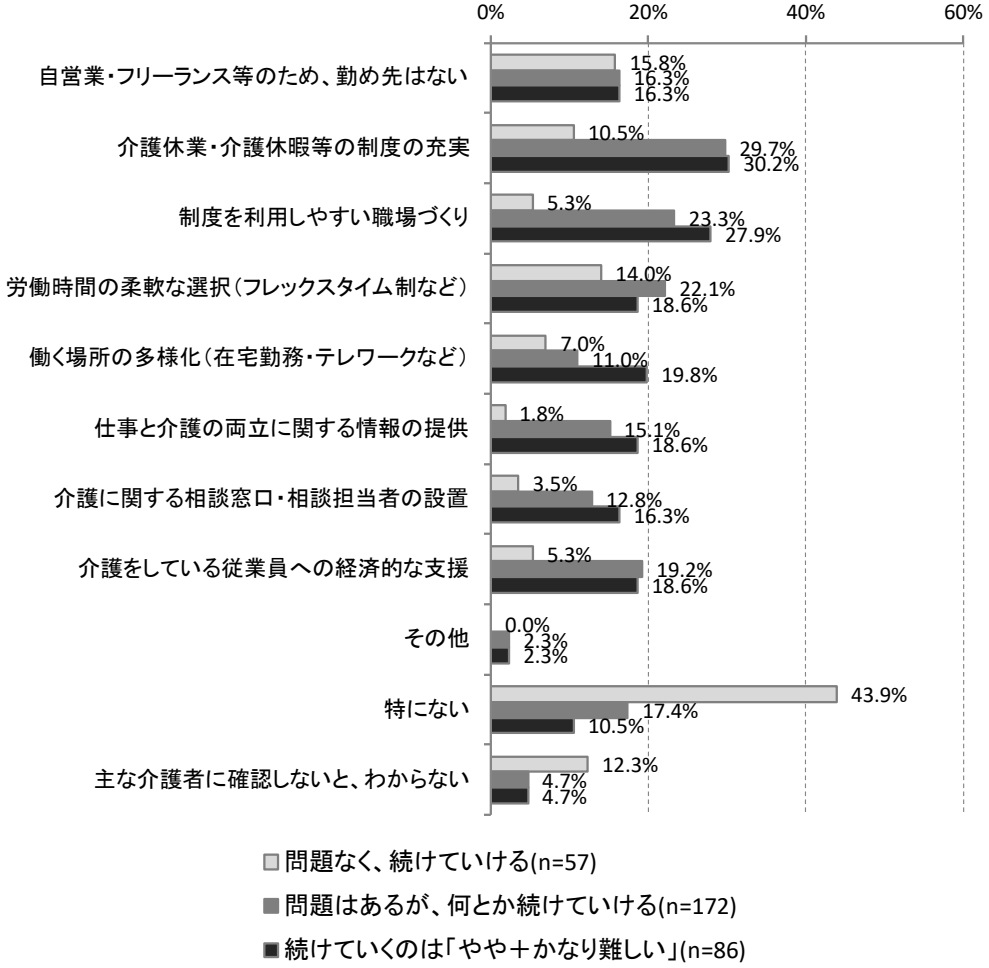
⑦就労継続見込別　介護のための働き方の調整

働き方の調整を「特に行っていない」割合は、問題なく、続けていける層では 63.2%であるのに対し、続けていくのは「やや＋かなり難しい」層では 19.3%まで下がっており、就労継続を困難だと思っているほど、働き方の調整をしながら介護を行っていることが分かる。

続けていくのは「やや＋かなり難しい」層では「労働時間を調整しながら働いている」が 53.4%と5割を超えている。



⑧効果的な勤め先からの支援

「介護休業・介護休暇等の制度等の充実」「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」や「制度を利用しやすい職場づくり」を必要としている割合が高い。

全体として、問題はあるが、何とか続けていける層と続けていくのは「やや＋かなり難しい」層で、勤め先からの支援を必要としている割合が高めである。